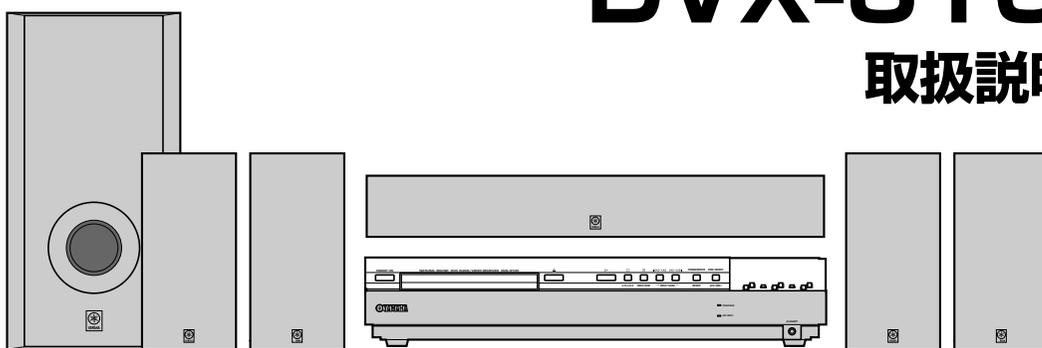


## DVDホームシアターサウンドシステム

# DVX-S100

## 取扱説明書



ヤマハDVDホームシアターサウンドシステムDVX-S100をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DVX-S100の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

### 保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておらず、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

# 安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

## 絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。  
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。  
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。  
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



### 下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がる。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

プラグを抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

### 電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

### 本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかる場所

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

### 雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

### 分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。  
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

### 放熱のため、本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
  - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
  - あおむけや横倒しには設置しない。
- (少なくともDVR-S100の左右/上/背面各10cm以上/SW-S100の左右/背面各10cm以上、上20cm以上離して設置してください。) 本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



禁止

### 電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



必ず行う

### 本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

### 必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



必ず行う

### 電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

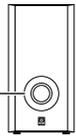


禁止

### 本機の通風孔やスーパーウーファーのポート(前面開口部)等にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

ポート



禁止

### 本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうそくなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- スーパーウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



必ず行う

### スピーカーケーブルは必ず壁等に固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが転落・落下し、故障したり、けがの原因となります。



必ず行う

### 取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。  
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**不安定な場所や振動する場所には設置しない。**

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

**直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。**

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

**電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。**

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

**長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電の原因となることがあります。



禁止

**電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。**

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。**

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

**長時間音が歪んだ状態で使用しない。**

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

**大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。**

聴力障害の原因となることがあります。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

**電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。**

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。**

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**ほこりや湿気の多い場所に設置しない。**

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。**

感電の原因となることがあります。



注意

**本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。**

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

**電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。**

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

**電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。**

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**スーパーウーファースのポート(前面開口部)には手を入れない。**

感電やけがの原因となることがあります。



禁止

**持ち運ぶときにはスーパーウーファースのポート(前面開口部)に手をかけない。**

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

**スーパーウーファースのポート(前面開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。**

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



注意

**環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。**

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

**薬物厳禁**

**ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。**

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

**フロント及びリアスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。**

- 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
- 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。
- 壁や天井に取り付ける場合、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用してください。正しい取付け方法をしないと、スピーカーが落下して、けがの原因となることがあります。



必ず行う

**センタースピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。**

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



禁止

**センタースピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。**

スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



必ず行う

**スピーカーとスピーカーブラケット・スピーカースタンドは必ず指定されたネジを使用して固定する。**

スピーカーが落ちたりすると、けがの原因となることがあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

**移動する場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、接続コードを外してから行ってください。**

落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

**本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。**

転倒したり破損したりして、けがの原因となることがあります。



注意

**年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。**

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。



必ず行う

**屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。**



必ず行う

**重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。**

けがの原因となることがあります。



注意

**ディスプレイに指を入れ、挟まれないように注意する。**

閉めるときに挟まれて、けがの原因となることがあります。

- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。
- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

### 音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 目次

## はじめに

目次	1
本機の特長	2
付属品を確認する	3
リモコンを準備する	3
各部の名称とはたらき	4
フロントパネル	4
リモコン (アンプモード)	6
ディスプレイ(左)	8
ディスプレイ(右)	9

## 準備する

準備の流れ	10
スピーカーを準備する	11
スピーカーの設置場所を決める	11
スピーカーを設置する	12
接続のしかた	15
テレビやビデオ/オーディオ機器を接続する	15
アンテナを接続する	17
スピーカーを接続する	18
他のアンプを接続する	20
電源コードを接続する	20
電源を入れる	20
スピーカーの音量レベルを調節する	21
テストトーンで調節する	21

## 音声/映像を楽しむ

音声/映像を再生する	22
基本操作	22
音場プログラムを選ぶ	24
外部機器で録音/録画する	29

## ディスクを再生する

ディスクについて	30
再生できるディスク	30
リージョンコードについて	30
ディスクのお取扱いについて	30
MP3の再生について	31
リモコンのキー名称とはたらき (DVDモード)	32
ディスクを再生する	33
基本操作	33
絵表示(GUI 画面)を使って操作する	35
GUI画面の操作方法	35
いろいろな再生を楽しむ	39
ディスクメニューを使って再生する	39
より高画質を楽しむ(プログレッシブ出力)	39
DVDオーディオ特有の機能について	40
高音質な音声を楽しむ(ディスクダイレクト)	41
音声、字幕言語、アングルを切り替える	41
全てのグループを順に再生する(オールグループ再生)	42
お好みの順に再生する(プログラム再生)	42
順不同に再生する(ランダム再生)	43
お好みの位置を記憶させる(マーカー)	44
繰り返し再生する(リピート再生)	45

お好みの場所を繰り返し再生する (A-Bリピート再生)	46
セットアップメニューでDVDモードの設定を変更する	47
設定方法	47
セットアップメニュー一覧表	48
視聴制限	50
PCM ダウンサンプリング変換	50
スピーカー設定	51

## FM/AM放送を楽しむ

FM/AM放送を聴く	53
選局する	53
放送局を登録する(プリセット)	54
登録した放送局を選んで聴く(プリセット選局)	55
登録した放送局を入れ替える	55

## 付属のリモコンを使いこなす

テレビ、ビデオ、MD/CDレコーダーをリモコンで操作する	56
メーカーコードを設定する	56

## 設定を変更する

セットメニューで設定を変更する	58
セットメニュー一覧	58
セットメニューの操作手順	58
スピーカーモードを設定する	59
LFE信号の再生レベルを調節する	60
センタースピーカーのディレイタイムを設定する	60
ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定する	61
フロントスピーカーの音量バランスを調整する	61
ヘッドホンの音質を調整する	61
入出力端子の割り当てを変更する	61
電源を入れたときの入力モードを設定する	61
ソースの出力先を変更する	61
二重音声出力時の出力モードを変更する	62
再生中にフロントスピーカー以外の音量レベルを調節する	63
音場プログラムの設定を変更する	64
ディレイタイムを調節する	64
ドルビープロロジック II Musicの設定を変更する	65

## その他の情報

故障かな?と思ったら	66
用語解説	71
入力信号と再生スピーカー対応表	73
メーカーコード一覧	75
主な仕様	76
ヤマハホットラインサービスネットワーク	77

# 本機の特長

本機はテレビ(モニター)と組み合わせるだけで映画館で味わえるような迫力と臨場感のある音場をご家庭で体験できるDVDホームシアターサウンドシステムです。

ヤマハ独自の技術を駆使した数々の最新音場プログラムは、映画、コンサートからスポーツ観戦まで、いろいろなソースに迫力と臨場感を与えます。

本機はDVDオーディオ/ビデオレシーバーとセンタースピーカー、フロント/リアサテライトスピーカー(以下、フロント/リアスピーカーと記載)、スーパーウーファー(サブウーファー)でシステム構成されており、調和のとれた音色はもとより、重低音の迫力とサラウンド感をお楽しみいただけます。さらに、各スピーカーを簡単に接続していただけるよう、専用スピーカーコネクタによる画期的なワンタッチ接続を採用しています。

- ◆ 5チャンネルアンプ
- ◆ DVD-AUDIO/VIDEO、CD、VCD、MP3、CD-R/RWの各ディスクの再生対応
- ◆ ドルビープロロジック /ドルビープロロジック II 対応
- ◆ ドルビーデジタル /ドルビーデジタル+マトリクス6.1対応
- ◆ DTS/DTS+マトリクス6.1対応
- ◆ AAC/AAC+マトリクス6.1対応
- ◆ FM/AMステレオチューナー
- ◆ ヤマハシネマDSP (多彩な音場プログラム)
- ◆ サイレントシアター
- ◆ バーチャルシネマDSP
- ◆ 専用スピーカーコネクタでフロントスピーカー、リアスピーカーを簡単接続
- ◆ いくつかの他メーカーのAV機器も操作可能な多機能リモコン付属
- ◆ スタイリッシュなデザイン

## ■ 本書の記載について

- ※ヒントは操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利権者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、またマクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729



DTSおよびDTSデジタルサラウンドはデジタルシアターシステムズの登録商標です。

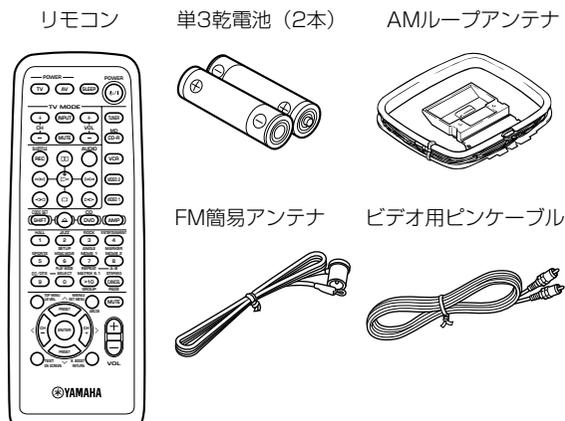


はSage社の事業部門であるFaroudjaの登録商標です。

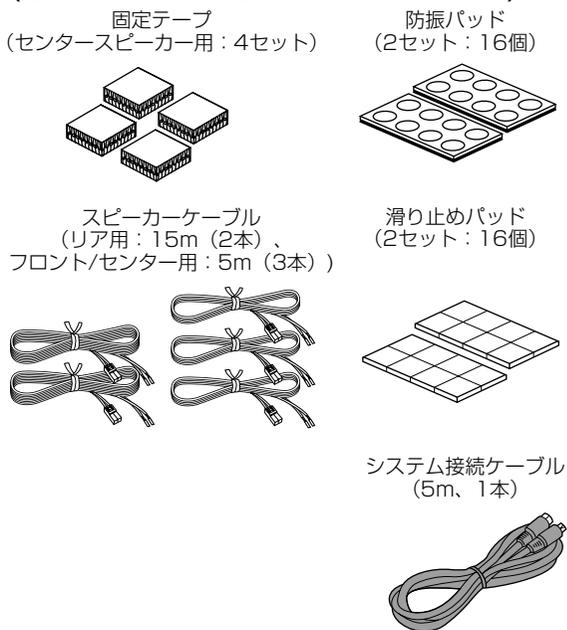
## 付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

### DVR-S100

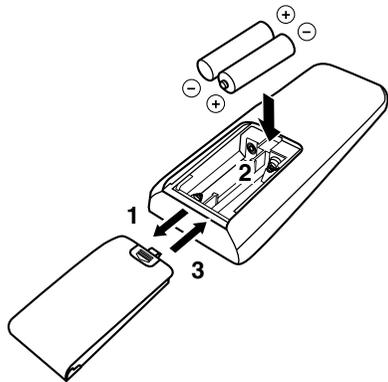


### NX-SW100 (NX-S100S×4, NX-S100C, SW-S100)



## リモコンを準備する

### リモコンに電池を入れる



- 1 リモコンの裏ぶたの マークを押しながら、電池カバーを取りはずす。
- 2 付属の単3乾電池 (2本) を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス (+) とマイナス (-) の向きを間違えないように、正しく入れる。
- 3 裏ぶたを閉じる。  
電池ケース内の表示に従って、プラス (+) とマイナス (-) の向きを間違えないように正しく入れてから、裏蓋を閉める。

### 乾電池が消耗したときは、交換してください

乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

#### ご注意

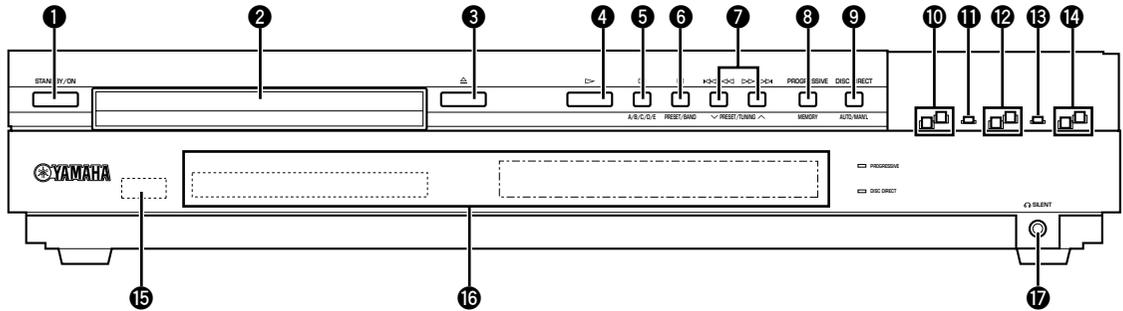
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

#### メーカーコードの保持について

乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身で設定されたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消えてしまうことがありますのでご注意ください。また、このときリモコンのキーを誤って押すと、メーカーコードが消えてしまうことがありますのでご注意ください。

# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### ① <sup>スタンバイ</sup> <sup>オン</sup> STANDBY/ONスイッチ

本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。  
なお、電源を入れて数秒間は音が出ません。  
スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

### ② ディスクトレイ

再生するディスクをセットします。

### ③ $\triangle$ キー

トレイを開閉します。

### ④ $\triangleright$ キー

ディスクを再生します。

### ⑤ $\square$ (A/B/C/D/E) キー

再生を停止します。  
(TUNER選択時にFM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。)

### ⑥ $\square$ (PRESET/BAND) キー

再生を一時停止します。  
(TUNER選択時にFM/AM放送の切り替えおよびチューニングモードとプリセットモードを切り替えます。)

### ⑦ $\lll/\lll$ 、 $\ggg/\ggg$ ( $\surd$ PRESET/TUNING/ PRESET/TUNING $\wedge$ ) キー

押すごとにディスクトラックの頭出しをし、押し続けると早送りまたは早戻しをします。  
(TUNER選択時にディスプレイのバンド(FMまたはAM)表示のとなりに「:」が点灯している際に、1-8の登録(プリセット)局番号を選択します。受信したい放送局を選びたいときには「:」の表示を消してください。)

### ⑧ <sup>プログレッシブ</sup> <sup>メモリ</sup> PROGRESSIVE (MEMORY) キー

DVDモード時にプログレッシブ映像出力とインターレース映像出力を切り替えます。  
(TUNER選択時に受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押しすと、オートプリセット機能を利用できます。)

### ⑨ <sup>ディスク</sup> <sup>ディレクト</sup> <sup>オート</sup> <sup>マニュアル</sup> DISC DIRECT (AUTO/MAN'L) キー

DVDモード時にDISC DIRECT機能を切り替えます。  
(TUNER選択時に手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTO表示を点灯させます。手動選局する場合は、AUTO表示を消します。)

### ⑩ <sup>インプット</sup> INPUT $\blacktriangle/\blacktriangledown$ キー

再生したいソースを選びます。

### ⑪ <sup>インプット</sup> <sup>モード</sup> INPUT MODEキー

同じ機器を複数の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。

### ⑫ <sup>ディーエスピー</sup> DSP $\blacktriangle/\blacktriangledown$ キー

音場プログラムを選択します。

### ⑬ <sup>ステレオ</sup> STEREOキー

通常のステレオ音声と音場効果を加えた音声を切り替えます。STEREOを選択すると、音場効果のない音声はフロントL、Rスピーカーから出力されます。

ボリューム  
⑭ **VOLUME+/-キー**

全体の音量を調節します。  
オーディオ端子の出力(Rec)レベルには影響しません。

⑮ **リモコン受光窓**

付属リモコンからの信号を受信します。

⑯ **ディスプレイ**

プログラムの名称や設定値、再生時の情報などを表示します。

サイレント  
⑰ **SILENT**

ヘッドホンを接続します。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しめます。

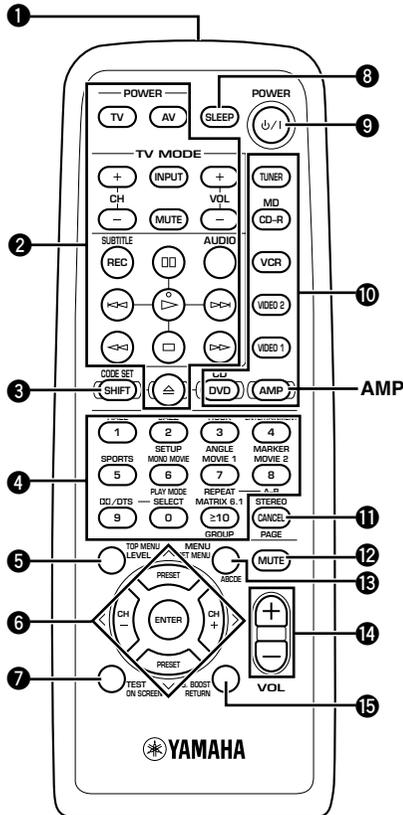
## リモコン (アンプモード)

チューナー(FM/AM放送)とDVD(ディスク操作)以外の本体操作をするときのリモコン各部の名称とはたらきについて説明します。本機を操作するときは、最初にAMPキーを押してください。

リモコンによる本機のDVD機能やその他の機器の操作について詳しくは、「リモコンのキー名称とはたらき(DVDモード)」(32ページ)及び「テレビ、ビデオ、MD/CDレコーダーをリモコンで操作する」(56~57ページ)をご覧ください。

### ※ ヒント

- リモコンの紫色で表示されたキーはアンプモード時の操作キーです。



### ① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

### ② 基本操作キー

入力選択キーで選んだ機器の基本操作をおこないます。

### ③ CODE SETキー

メーカーコードを設定します。

### ④ 音場プログラムキー

音場プログラムを選択します。キーを繰り返し押すと、各グループ内のプログラムを選択できます。

### ⑤ LEVELキー

センター、リア、スーパーウーファーの各チャンネル出力を調節します。

### ⑥ く、>、へ、✓/ENTERキー

セットメニューの選択や設定などをします。

### ⑦ TESTキー

テストトーンを出力します。

### ⑧ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。

### ⑨ POWER (TV/AV) キー

本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。

### ⑩ 入力選択/AMPキー

再生するソースを選び、操作する機器を切り替えます。ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。

### ⑪ STEREOキー

通常のステレオ音声と音場効果を加えた音声を切り替えます。STEREOを選択すると、音場効果を加えない音声はフロントL、Rスピーカーから出力されます。

### ⑫ MUTEキー

消音します。もう1度押すと、元の音量に戻ります。

### ⑬ SET MENUキー

セットメニューモードを選択します。

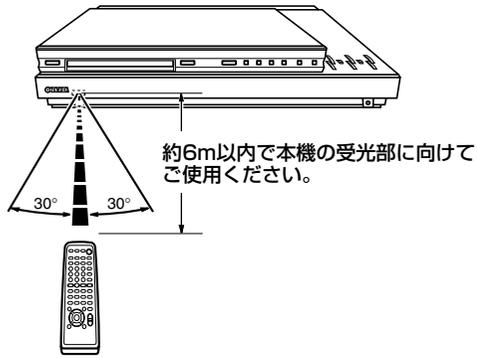
### ⑭ VOL +/-キー

本機の音量を調節します。

### ⑮ B. BOOSTキー

BASS BOOST機能のオン/オフを切り替えます。

## ■ リモコンの使用について

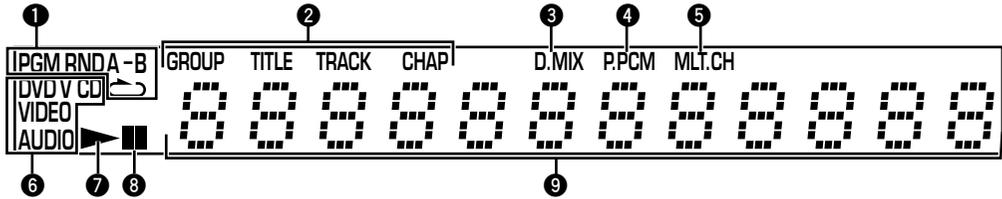


### リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  - －ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
  - －ほこりの多いところ。
  - －極端に寒いところ。

## ディスプレイ(左)

主にディスク再生に関する情報を表示します。



### ① 再生状態表示

PGM:プログラム再生/RND:ランダム再生  
 ↺:リピート再生/A-B ↺:A-Bリピート再生

### ② モード表示

GROUP:グループ表示モード/TITLE:タイトル表示モード  
 TRACK:トラック表示モード/CHAP:チャプター表示モード

### ③ D.MIX (Down Mix) 表示

ダウン ミックス  
 ダウンミックス(マルチチャンネル信号を2chに集約)できる音声信号が入っているときに点灯します。

### ④ P.PCM (Packed PCM) 表示

バックト ビーシーエム  
 P.PCM信号が入っているときに点灯します。

### ⑤ MLT.CH (Multi Channel) 表示

マルチ チャンネル  
 マルチチャンネル信号が出力されているときに点灯します。

### ⑥ ディスク表示

DVD AUDIO:DVDオーディオ/DVD VIDEO:DVDビデオ  
 VCD:ビデオCD/CD:音楽CD

### ⑦ 再生表示

ディスク再生中に点灯します。続き再生メモリー機能が働いているときに点滅します。

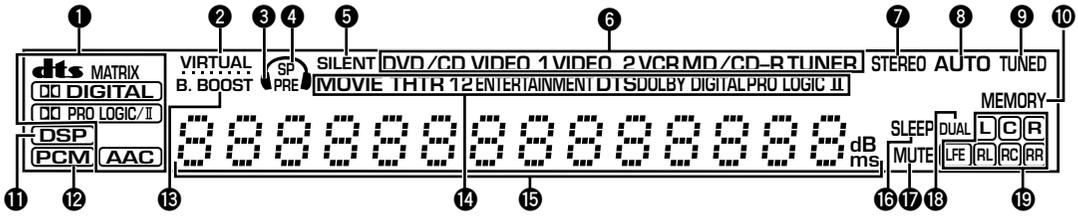
### ⑧ 静止(一時停止)表示

ディスク再生を静止したときや、一時停止したときに点灯します。

### ⑨ 左メイン表示部

再生経過時間やトラック番号、各種メッセージなどを表示します。

## ディスプレイ(右)

**① デコーダー表示**

本機内蔵のデコーダーが作動中に、それぞれの表示が点灯します。

バーチャル

**② VIRTUAL表示**

バーチャルシネマDSP時に点灯します。

**③ ヘッドホン表示**

SILENT端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

**④ SP/PRE表示**

セットメニューの9 SP/PRE OUTで設定した項目の表示が点灯します。(ヘッドホン接続時を除く。)

サイレント

**⑤ SILENT表示**

サイレントシアター時に点灯します。

**⑥ 入力ソース表示**

選択しているソース名が点灯します。

ステレオ

**⑦ STEREO表示**

AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

オート

**⑧ AUTO表示**

TUNER選択時にオート選局にすると点灯します。

チューンド

**⑨ TUNED表示**

FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

メモリー

**⑩ MEMORY表示**

放送局を登録(プリセット)するときに点滅します。

ディーエスピー

**⑪ DSP表示**

DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

ピーシーエム

**⑫ PCM表示**

PCM信号を再生中に点灯します。

バス ブースト

**⑬ B. BOOST表示**

BASS BOOSTの設定をONにすると点灯します。(ヘッドホン接続時を除く。)

**⑭ 音場プログラム表示**

音場プログラムを選んだときに、それぞれの表示が点灯します。

**⑮ 右メイン表示部**

音場プログラム名や各項目の設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

スリープ

**⑯ SLEEP表示**

スリープタイマーが作動中に点灯します。

ミュート

**⑰ MUTE表示**

消音状態のときに点滅します。

デュアル

**⑱ DUAL表示**

ドルビーデジタルや、AACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

**⑲ 入力信号チャンネル表示**

再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応した表示が点灯します。

# 準備の流れ

本機を中心としたAVシステムで音声や映像を楽しむには、以下の手順で準備を行います。詳しい準備の内容については、各ページをご覧ください。

## リモコンを準備する。(3ページ)

付属リモコンに乾電池を入れます。



## スピーカーを準備する。(11ページ)

- スピーカーの設置場所を決める(11ページ)
- スピーカーを設置する(12ページ)



## 接続する。(15～20ページ)

- テレビやビデオ/オーディオ機器を接続する(15ページ)
- アンテナを接続する(17ページ):  
内蔵チューナーを利用するために、付属のAMループアンテナとFM簡易アンテナを接続します。
- スピーカーを接続する(18ページ):  
スーパーウーファーを本機とつないだあと、その他の付属の5スピーカーをスーパーウーファーに接続します。
- 電源コードを接続する(20ページ)
- 電源を入れる(20ページ)



## スピーカーの音量レベルを調節する。(21ページ)

テストトーンを出力して、各スピーカーの音量が均等になるように調節します。

## 正しく接続するために

- 全ての接続が終わるまで、本機および接続する機器の電源コードをACコンセントに差し込まないでください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プラグはしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。
- 端子名は入力選択キーに対応しています。

## 接続が終わったら

正しく配線されているか、もう一度確かめください。

# スピーカーを準備する

本機はフロントスピーカー(2本)、センタースピーカー(1本)、リアスピーカー(2本)、スーパーウーファー(1本)の5.1チャンネルスピーカーシステムで最良の音場効果を楽しめるように設計されています。

フロントスピーカーはフロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出し、リアスピーカーはサラウンドと効果音、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出します。また、スーパーウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

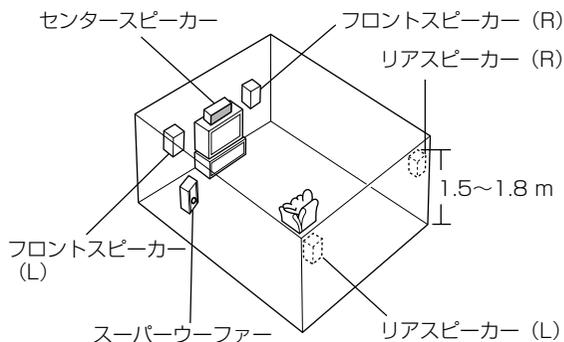
スピーカーモードの設定を変えることで、フロントスピーカーとスーパーウーファーだけで再生することができますが、最良の音場効果を楽しむために、センタースピーカーとリアスピーカーを加えることをおすすめします。

## ご注意

- 5.1チャンネルスピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるシステムにあわせて、スピーカーモードを設定してください。(59ページ)

## スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。



準備する

### フロントスピーカー(L, R)

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーを視聴位置から等距離に設置します。テレビ(モニター)は、左右のスピーカーの中央に設置するようにしてください。

### センタースピーカー

フロントスピーカーの中間に設置します。テレビ(モニター)を設置している場合は、テレビ(モニター)画面とスピーカーの前面を揃え、テレビ(モニター)の上や下など、できるだけテレビ(モニター)画面に近いところの中央に設置します。

### リアスピーカー(L, R)

後方斜め、スピーカーを視聴位置に向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

### スーパーウーファー

前方左右どちらかの壁面寄り、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

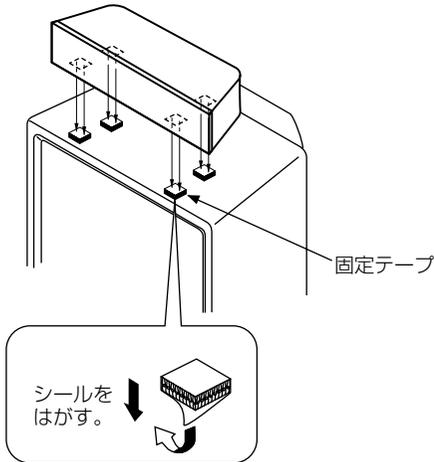
## ご注意

- テレビ(モニター)の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ(モニター)から離して設置してください。

## スピーカーを設置する

### ■ センタースピーカーをテレビの上に設置する

センタースピーカーをテレビの上に設置する場合は、必ず上面が水平なテレビをお選びください。もしテレビの上面が水平でない場合は、テレビラック内やテレビ真下の床下など、必ず表面が水平な場所に設置してください。テレビの上に設置する際は、下図のように付属の固定テープ(4個)をセンタースピーカー底面とテレビ上面に貼り、固定してください。



#### ◆ ご注意

- スピーカー底面よりも面積が狭いテレビの上面には設置しないでください。スピーカーが落下するおそれの原因になります。
- 上面が傾いたテレビの上には設置しないでください。スピーカーが落下するおそれの原因になります。
- 固定テープのシールをはがした後は、接着面にはさわらないでください。テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。
- 固定テープを貼る前に、テレビの上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。

### ■ フロント及びリアスピーカーを設置する

図のようにフロント及びリアスピーカーの底面に付属の滑り止めパッドを取り付けてください。フロント及びリアスピーカーが滑りにくくなり安定します。

※安定した平らな面に設置して使用してください。

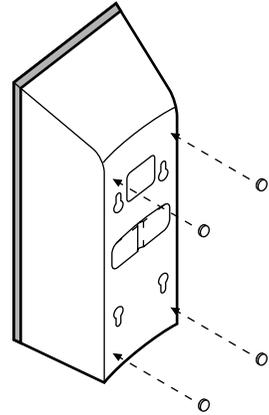


### ■ フロント及びリアスピーカーを壁に取り付ける

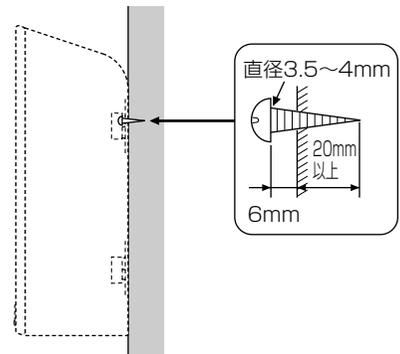
フロント及びリアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、フロント及びリアスピーカー背面の穴を使います。

#### 1 付属の防振パッドをフロント及びリアスピーカーの背面に貼り付ける。

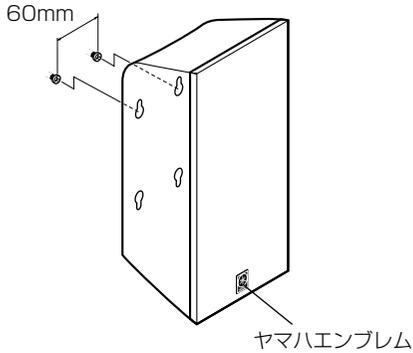
- 壁に掛けるときに、壁に当たる部分に貼り付けてください。



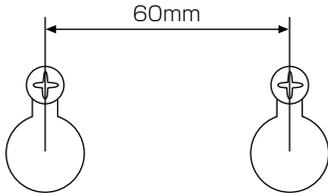
#### 2 フロント及びリアスピーカーを掛ける場所に2本のタッピングネジ(市販品：直径3.5~4mm)を取り付ける。



**3** ネジの頭に穴を掛ける。



- タッピングネジが、穴の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。
- 下側の穴を使って、リアスピーカーを掛けることもできます。この場合はヤマハエンブレムの向きは逆さになりますが、エンブレムの向きを変えることはできません。
- 取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。



**ご注意**

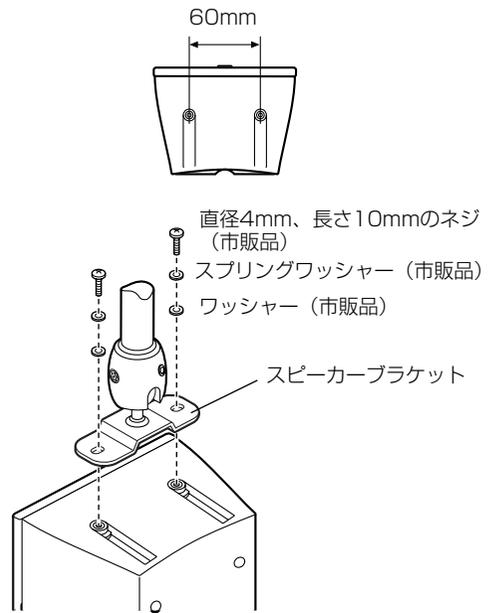
- スピーカーの質量は1台約1.1kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニヤ板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するおそれの原因になります。
- スピーカーを釘や両面テープなどで取り付けしないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下するおそれの原因になります。
- スピーカーケーブルを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。  
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

**市販の天井吊り用/壁掛け用スピーカーブラケット（別売：ヤマハSPM-8など）やスピーカースタンド（別売：SPS-10MMなど）を使用するときは**

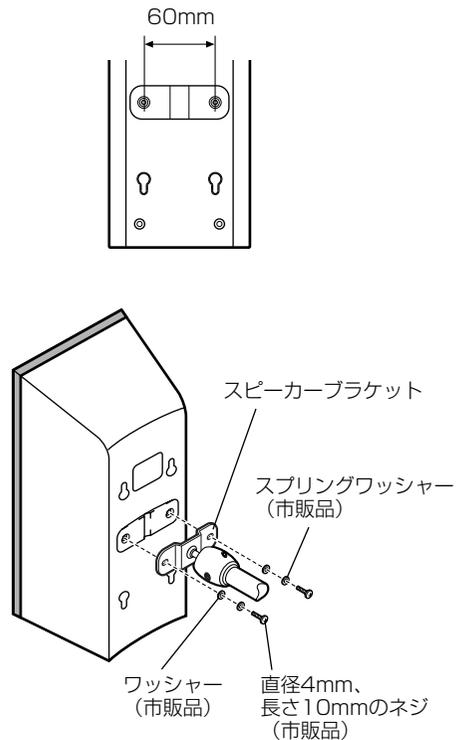
フロント/リアスピーカー底面または背面の穴（60mm間隔）を使い、スピーカーブラケットまたはスピーカースタンドをネジで固定する。（SPM-8をご使用の場合には、SPM-8に付属のネジを使用してください。また、SPS-10MMをご使用の場合は、SPS-10MMに付属のネジと付属品を使用してください。）

スピーカーブラケットの取り付け

フロント及びリアスピーカー（底面）

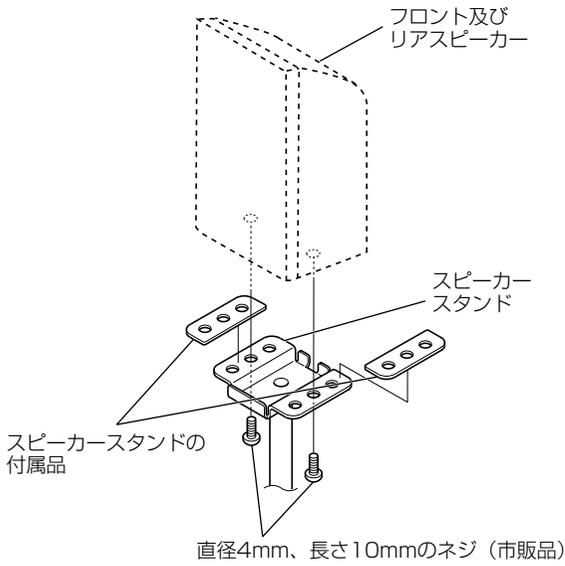


フロント及びリアスピーカー（背面）



準備する

## スピーカースタンドの取り付け



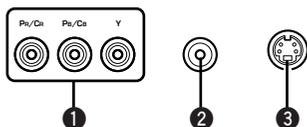
取り付けの際は、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

# 接続のしかた

## テレビやビデオ/オーディオ機器を接続する

映像/音声を正しく再生/録画(録音)するためには、接続した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

### ■ 本機のビデオ端子について



#### ① コンポーネントビデオ端子：

コンポーネントビデオケーブルを接続します。Sビデオ端子の接続よりもより忠実に映像の色を再現できます。

#### ② ビデオ端子：

ビデオ用ピンケーブルを接続します。

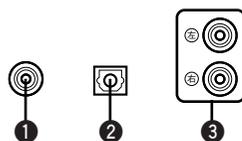
#### ③ Sビデオ端子：

Sビデオケーブルを接続します。ビデオ端子の接続よりも美しい映像を楽しむことができます。

#### ご注意

- 本機では、①、②、③の端子間の信号は独立しています。ビデオ端子から入った信号はビデオ端子に、Sビデオ端子から入った信号はSビデオ端子に出力されます。
- 本機をテレビ(モニター)、ビデオ再生機器および録画機器に接続する際には、入出力側とも、ビデオやSビデオ、コンポーネントビデオなどの同じ種類の端子に接続してください。
- 本機のSビデオ端子は、映像に合わせてテレビのワイドモードを切り替える、S1およびS2規格には対応していません。(DVDモード時を除く)
- 市販のコンポーネントビデオ信号対応機器には、端子名が「Y、P<sub>B</sub>、P<sub>R</sub>」以外に、「Y、C<sub>B</sub>、C<sub>R</sub>」や「Y、B-Y、R-Y」がありますが、詳細は接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- テレビ(モニター)に接続するときは、以下の端子には接続しないでください。接続すると、画面が乱れたり映らないことがあります。
  - DVDに対応していないハイビジョン方式専用のコンポーネントビデオ入力端子
  - 本機のコピーガードシステムに対応していない525p映像入力端子
- 本機の映像出力をビデオテープレコーダーや本機のコピーガードシステムに対応していないAVセレクターなどに接続しないでください。テレビ(モニター)と本機の間ビデオテープレコーダーなどを接続すると、著作権保護の影響により、再生時に画面が乱れることがあります。
- DVDモード時にプログレッシブ出力を選んでいるときには、映像信号はコンポーネントビデオ端子からのみ出力されず。(39ページ)

### ■ 本機のオーディオ端子について



#### ① コアキシャル端子:(デジタル信号用)

同軸ピンケーブルを接続します。

アナログ音声端子の接続よりも高音質な音声を楽しむことができます。

#### ② オプティカル端子:(デジタル信号用)

光ファイバーケーブルを接続します。

アナログ音声端子の接続よりも高音質な音声を楽しむことができます。

#### ③ アナログ音声端子：

ステレオピンケーブルを接続します。

#### ※ ヒント

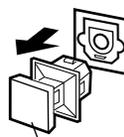
- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、及びAACの各信号方式に対応しています。
- 全デジタル入力端子はサンプリング周波数96kHzのデジタル信号に対応します。
- セットメニューの「I/O ASSIGN」を変更することで、使用していないデジタル入力端子を他の機器用に変更して、使用することもできます。

#### ご注意

- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 同じ入力系統のコアキシャル端子とオプティカル端子から同時にデジタル信号が入力されるときは、コアキシャル端子からの入力信号が優先されます。
- 本機のオプティカル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に機能しないことがあります。
- 出力(Rec)端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてください。

### 防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、オプティカル端子に付いている防塵キャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)



防塵キャップ

## ■ 接続の全体図

接続の際には、お手持ちの機器にあった付属または市販の接続ケーブルをご使用ください。

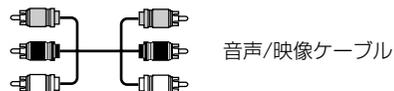
### オーディオ用



### ビデオ用



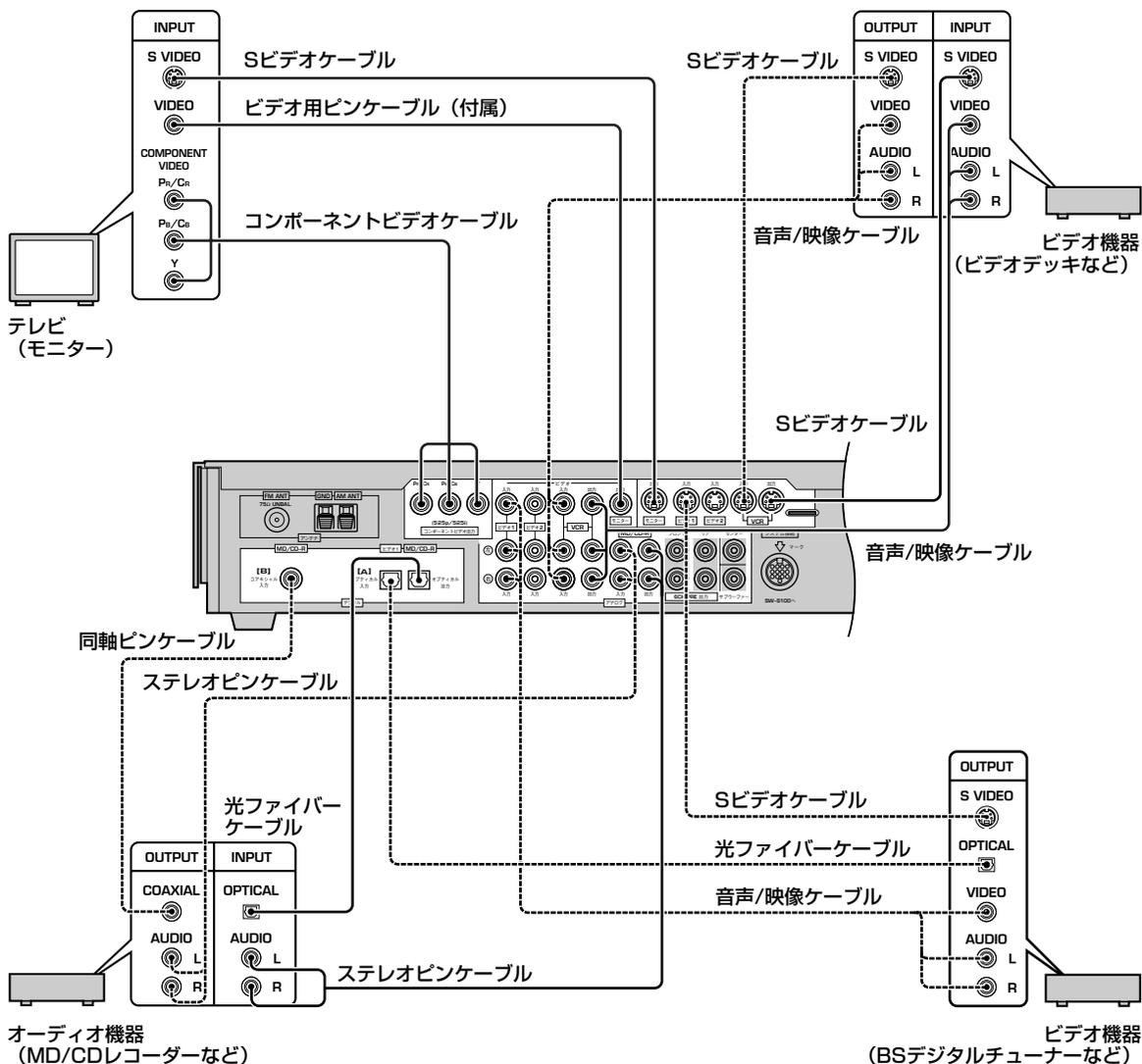
### オーディオ/ビデオ用



下図は接続例です。お手持ちの機器にあわせて接続してください。

### ※ ヒント

- 本機からの出力を実線で、本機への入力破線で示しています。

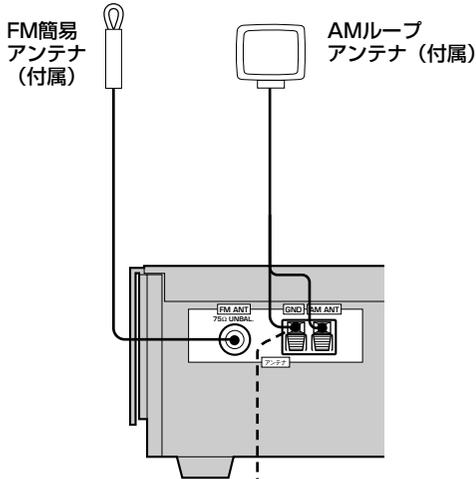


## アンテナを接続する

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。電波の受信がとても良い地域では、付属のアンテナをご使用ください。  
各アンテナを端子に正しく接続してください。

### ■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。



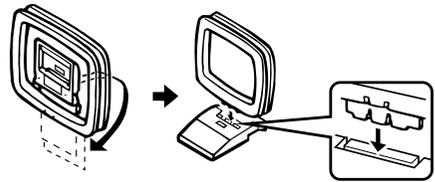
**アース (GND端子)**  
通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースをとることをお勧めします。アースは市販のアース棒が銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

### FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクタを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

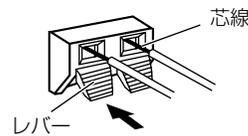
### ■ AMループアンテナを接続する

#### 1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。



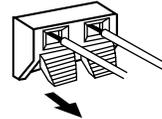
#### 2 AM ANT端子とGND端子のレバーを下げた状態で、AMループアンテナのコードの芯線を2つの穴に差し込む。

コードに極性はありません。



#### 3 レバーを戻して、コードを固定する。

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



#### 4 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向ける。



#### ※ ヒント

- AMループアンテナをスタンドから取り外して、壁などに取り付けることもできます。
- 受信を良くするためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

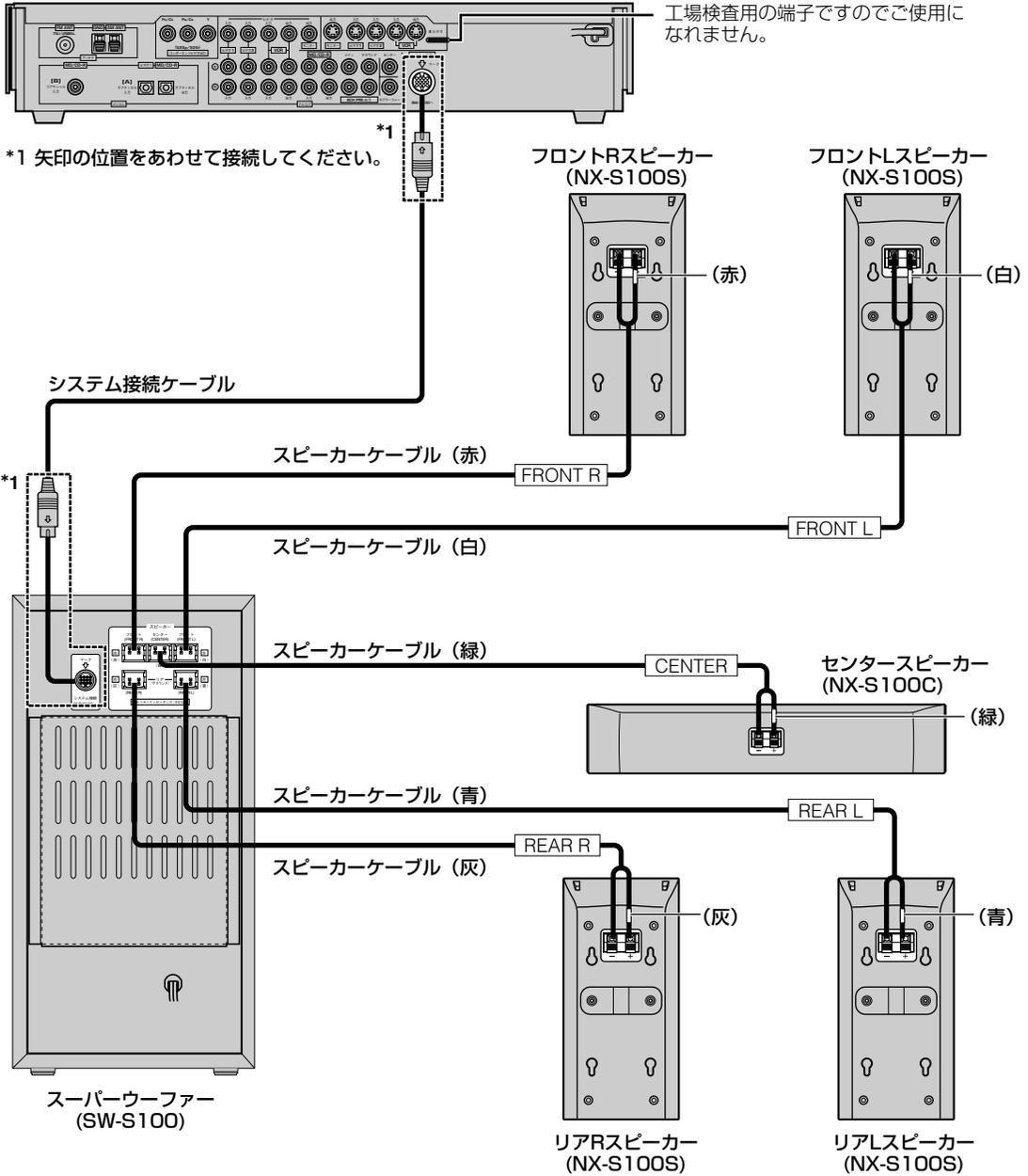
#### ご注意

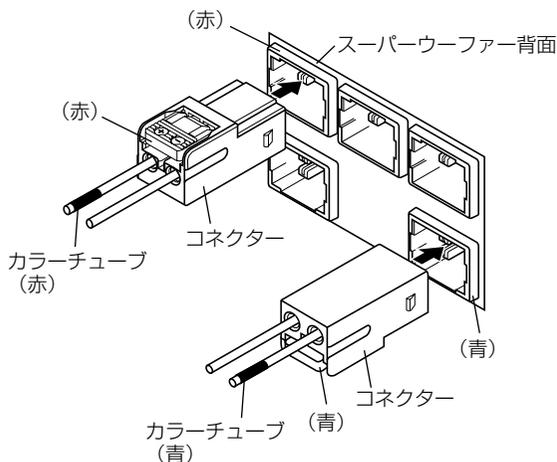
- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続してください。

## スピーカーを接続する

付属のスピーカーケーブルとシステム接続ケーブルを使って付属のスピーカーとDVDオーディオビデオレシーバーを下記のようにつなぎます。

DVDオーディオ/ビデオレシーバー (DVR-S100)





### ※ ヒント

- 付属のスピーカーケーブルのコネクターとスーパーウーファの端子は色分けしてあります。同じ色どうしをつないでください。
- 各スピーカーケーブルには接続先のスピーカーのラベルがついています。ラベルにあわせてスピーカーを接続してください。
- スピーカーケーブル先端のカラーチューブのついているほうを各スピーカーの+側へ接続してください。極性(+/-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。
- スピーカーケーブルの先端には被膜がついていますので、被膜をはがしてからスピーカーを接続してください。
- システム接続ケーブルのプラグとスピーカーケーブルのコネクターは差し込む向きが決まっています。正しい向きを確認してから差し込んでください。

### ご注意

- スピーカーケーブルを接続する際には、ショート(被膜をはがした芯線どうしを接触)させないようにご注意ください。ショートをした状態で電源を入れると本機の保護回路が作動して自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因となるおそれがあります。
- プラグやコネクターを無理に差し込まないでください。プラグやコネクター、端子が破損する原因となります。
- システム接続ケーブルやスピーカーケーブルを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して音が出なくなったり、火災や感電の原因となります。特に、ラックやキャスターで踏みつけたりしないようご注意ください。
- システム接続ケーブルの抜き差しは、DVDオーディオ/ビデオレシーバーとスーパーウーファの電源コードを抜いてから、おこなってください。

## ■ 市販のスピーカーやスピーカーケーブルを使用する

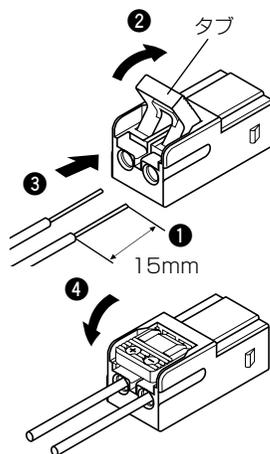
お好みに応じて、市販のスピーカー(スーパーウーファーを除く)やスピーカーケーブルを使用することが出来ます。その場合は、下記の点にご注意ください。

- 6Ω以上のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。それ未満のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が作動したり、また、故障することもあります。
- 防磁型スピーカーをご使用ください。防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ(モニター)に映る映像が乱れることがあります。防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ(モニター)の映像が乱れるときは、スピーカーをテレビ(モニター)と離して設置してください。
- 使用するスピーカーケーブルは付属のケーブルと同等の太さのものをご使用ください。太すぎるケーブルは使用できません。

### ※ ヒント

- 各スピーカーの音質が異なると、移動する人物の声などが不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音質の揃ったスピーカーのご使用をおすすめします。

## スピーカーケーブルを交換する



- 1** 市販のケーブルの先端の被膜を15mm位はがして、中の芯線をしっかりよじる。しっかりよじらないとショートの原因になります。
- 2** タブを開ける。
- 3** 付属のケーブルをコネクターからはずし、かわりに市販のケーブルの芯線を差し込む。
- 4** タブを戻してケーブルを固定する。

## 他のアンプを接続する

より大きな音量で音声を楽しみたいときや、お手持ちのアンプを利用したいときは、本機の6CH PRE出力端子と他のパワーアンプをピンケーブルで接続します。

### ご注意

- 他のパワーアンプと接続したときは、セットメニューの「9 SP/PREOUT」をPREに設定してください。(61ページ)

#### ① フロント端子：

フロントL、Rチャンネルの信号を出力します。

#### ② リア端子：

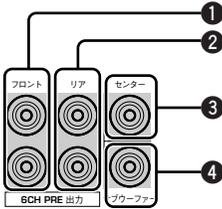
リアL、Rチャンネルの信号を出力します。

#### ③ センター端子：

センターチャンネルの信号を出力します。

#### ④ サブウーファー端子：

フロント、センターおよびリアチャンネルからの90Hz以下の低音域の信号及びドルビーデジタルなどのLFE信号を出力します。



### ※ ヒント

- 6CH PRE出力端子から出力される信号には、下記の設定が反映されます。
  - BASS BOOST の設定
  - スピーカー設定(出力する端子に反映されます。)
  - 音場プログラム(音場効果を加えたソースを出力できません。)

## 電源コードを接続する

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにDVDオーディオビデオレシーバー及びスーパーウーファアの電源コードのプラグを接続します。

### ご注意

- 電源コードをACコンセントに接続する場合には、電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがありますので、好みの向きで接続してください。

## ■ メモリーバックアップについて

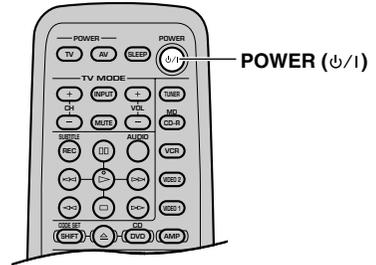
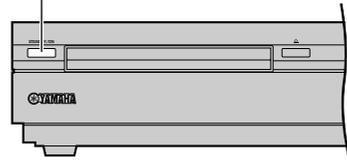
本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、以下の項目は約1週間ほど記憶されています。1週間以上たつて設定が消えてしまった場合には、再度設定してください。

- 選択していた入力選択キー
- 音量(ボリューム)
- スーパーウーファー、センター、リアL、Rスピーカーの各音声出力レベル設定
- セットメニューの各種設定
- BASS BOOSTの設定
- スリープタイマーの設定
- 登録した放送局
- 音場プログラムの設定(ディレイタイム、設定値)
- DISC DIRECTの設定(DVDモード)

## 電源を入れる

ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

### STANDBY/ON



- 1** 本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのPOWER (φ/1) キーを押す。  
本機の電源が入ります。
- 2** DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。

### ご注意

- 5.1チャンネルで使用しないときや、付属のスピーカー以外のスピーカーを使用するときには、電源を入れたあと、他の操作に移る前にスピーカーモードを設定してください。詳しくは「スピーカーモードを設定する(1 SPEAKER SET)」(59ページ)をご覧ください。

# スピーカーの音量レベルを調節する

テストトーンを出力して、視聴位置で聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビーデジタルやDTS、AACを最良の環境で使用するために重要です。

## ご注意

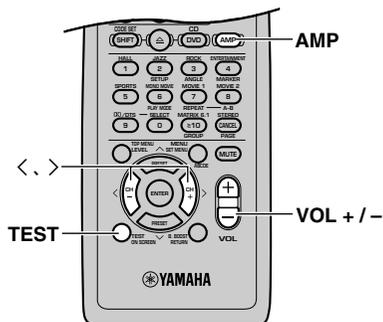
- ヘッドホンをつないでいると、音声出力レベルを調整できません。音声出力レベルを調節する前に、ヘッドホンを取りはずしてください。

## テストトーンで調節する

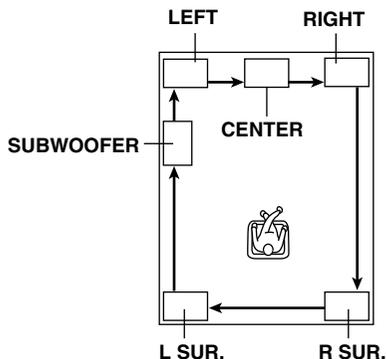
付属のリモコンを使って、サラウンドサウンドシステムに必要な各スピーカーの音量レベルを調節します。

## ご注意

- 調節は必ず視聴位置で行ってください。



- AMPキーを押す。
- TESTキーを押す。
- テストトーンが聞こえるように、VOL+/-キーを押して本機の音量を調節する。  
テストトーンは、下図のようにLEFT(フロントLスピーカー)→CENTER(センタースピーカー)→RIGHT(フロントRスピーカー)→R SUR.(リアRスピーカー)→L SUR.(リアLスピーカー)→SUBWOOFER(スーパーウーファー)...の順で巡回し、それぞれ約2秒間ずつ聴こえます。その際に本機のディスプレイにテストトーンを出力しているスピーカーが表示されます。



- 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間にくキーまたは>キーを押して、フロントスピーカーの音量レベルと同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンは調節中のスピーカーからのみ出ます。

## ご注意

- テストトーンモードではフロントスピーカーの音量レベルの調節はできませんので、別途VOL+/-キーでフロントスピーカーの音量(ボリューム)を調節してください。

- 調節が終わったら、TESTキーを押す。  
テストトーンが止まります。

## ※ ヒント

- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーレベルがお好みに合わないことがあります。この場合は、実際の再生音を聴きながら調節してください。詳しくは、「再生中にフロントスピーカー以外の音量レベルを調節する」(63ページ)をご覧ください。
- センタースピーカーやリアL、Rスピーカーの音量レベルを+10dBまで上げてもフロントスピーカーより音が小さい場合は、セットメニューの「1EF. Level」を-10dBに設定して、フロントスピーカーの音量レベルを約1/3に下げてください。フロントスピーカーの音量レベルを変更した場合は、センタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーの音量レベル調節をもう一度おこなってください。

## ご注意

- セットメニューの「1A CENTER」がNONIに設定されている場合は、センタースピーカーの信号は左右のフロントスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられ、フロントL、Rスピーカーから出力されます。この場合、センタースピーカーの音声出力レベルを調節することはできません。
- セットメニューの「1C REAR LR」がNONIに設定されている場合は、リアL、Rスピーカーの音量レベルは手順4では調節できません。テストトーンはリアL、Rスピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「1D BASS」がFRONTに設定されている場合は、テストトーンはスーパーウーファーをとばして巡回します。



## ■ 本機の使用を終了するときは

POWER(⏻)キーを押して、本機をスタンバイ状態にしてください。

### ※ ヒント

- 本体のSTANDBY/ONスイッチを押してもスタンバイ状態にできません。

## ■ 電源が自動的に切れる時間を設定する (スリープタイマー)

設定した時間が経過すると電源がスタンバイ状態になるので、お好みのソースを楽しみながらおやすみになれます。

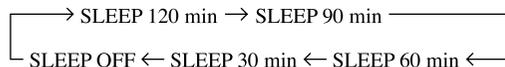
### ※ ヒント

- 本機はタイマー再生機能がありません。タイマー再生をしたいときは市販のタイマーをお使いください。詳しくはタイマーの取扱説明書をご覧ください。
- 再生する機器のスリープタイマーとは連動していませんので、各機器ごとにスリープタイマーを設定してください。

### (ソース再生中)

**SLEEP**キーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する。

SLEEPキーを押すごとに、本体ディスプレイ表示が下記のように切り替わります。(min=分)



スリープタイマーが設定されると本体ディスプレイに「SLEEP」表示が点灯してから、音場プログラム表示に戻ります。

## スリープタイマーを解除するには

本体ディスプレイに「SLEEP OFF」の表示が点灯するまで、SLEEPキーを繰り返し押す。しばらくすると「SLEEP OFF」表示が消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻り、「SLEEP」表示も消灯します。

### ※ ヒント

- リモコンのPOWER(⏻)キー、または本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。
- メモリーバックアップにより、前回設定した時間が記憶されているため、次回設定するときも同じ時間から設定できます。

## ■ 入力モードを切り替える

入力信号のデジタル、アナログの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に固定したりすることができます。

希望する入力モードがディスプレイに表示されるまで、選択している入力選択キーを繰り返し押ししてください。

- **AUTO**: 次の順序で入力信号が選ばれます。

- 1) デジタル信号
- 2) アナログ信号

- **DTS**: DTS信号以外は再生されません。
- **AAC**: AAC信号以外は再生されません。
- **ANALOG**: アナログ入力信号以外は再生されません。

### ※ ヒント

- 本体のINPUT MODEキーを繰り返し押ししても入力モードを切り替えることができます。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- セットメニューの「8 INPUT MODE」で、本機の電源を入れたときに、前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することもできます。

### ご注意

入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。

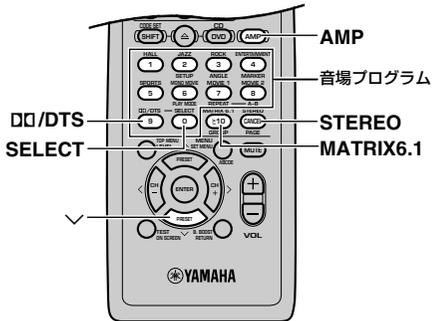
- ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(検索)してから再生をはじめると、一部のLDプレーヤーで、再生音が少し遅れて出る。
- デジタル録音されていないLDを再生する場合に、LDプレーヤーによっては正常な音が出ないことがあります。(この場合は入力モードをANALOGに設定してお使いください。)

## DTS-CD/LDのDTS音声の再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、雑音が出ることがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音は出ません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生する場合は:
  - 本機はDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード(**dts**表示が点灯)に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、**dts**表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、**dts**表示が点滅することがあります。この状態が約30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)入力に切り替わり、**dts**表示は消灯します。

## 音場プログラムを選ぶ

本機には、コンサートホールや映画館のような残響や臨場感を再現するDSP(デジタルサラウンドフィールドプロセッサ)が搭載されています。9種類の音場プログラムの中から、再生するソースに最適なプログラムを選び、臨場感や迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。



- 1 AMPキーを押す。
- 2 音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選ぶ。
- 3 音場プログラムキーを繰り返し押して、お好みの音場サブプログラムを選ぶ。

### ※ ヒント

- 本体のDSP▲/▼キーでも音場プログラムを選択できます。
- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられることがありますが、故障ではありません。
- プログラムの名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

ディスプレイ表示例：



## ■ 音場プログラムの特長

	No.	プログラム	特長
Hi-Fi DSP (音楽向け)	1	コンサート ホール <b>CONCERT HALL</b>	円形ホールをイメージさせる広大な音場です。全周囲に広がる反射音や強いサラウンド感、豊かな響きが特長です。
	2	ジャズ クラブ <b>JAZZ CLUB</b>	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
	3	ロック コンサート <b>ROCK CONCERT</b>	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460席程です。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
	4	エンターテインメント ディスコ <b>ENTERTAINMENT/ Disco</b>	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
		エンターテインメント チャンネル ステレオ <b>ENTERTAINMENT/ 5ch Stereo</b>	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴の、ホームパーティーを演出する音場プログラムです。

CINEMA-DSP (ビデオ向け)	4	エンターテインメント ゲーム ENTERTAINMENT/ Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにより一層の奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
		エンターテインメント コンサートビデオ ENTERTAINMENT/ Concert Video	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気になります。
	5	テレビ スポーツ TV SPORTS	様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現しています。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方への回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
CINEMA-DSP (映画向け)	6	モノ ムービー MONO MOVIE	古いモノラル名作映画専用のプログラムです。往年の名作映画の雰囲気を損なわずに臨場感を再現します。
	7	ムービー シアター MOVIE THEATER 1/ SPECTACLE	映画のワンシーンに飛び込んだような、超ワイドな空間がイメージできる音場です。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に最適です。
		ムービー シアター MOVIE THEATER 1/ SCI-FI	セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ音場を演出します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。
	8	ムービー シアター MOVIE THEATER 2/ ADVENTURE	セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れた音場です。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。
		ムービー シアター MOVIE THEATER 2/ GENERAL	響きを抑えた明瞭なセリフ、画面の周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響きが特長です。ラブストーリーやコメディなど、人の心の動きを描写する作品に適しています。
ストリーミング	9	ドルビー サラウンド DOLBY/DTS/AAC SURROUND/ ENHANCED	ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。映画館さながらの豊かなサラウンド音場が、リスナーを包み込みます。
	9	ドルビー サラウンド DOLBY/DTS/AAC SURROUND/ NORMAL	AAC、DTS、ドルビーデジタル またはドルビープロロジックで処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。スムーズで正確な音源の移動感や定位が得られます。

### ※ ヒント

- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の入力ソース名と音場プログラム名が選択されます。
- 入力ソースを切り替えると、最後に設定した音場プログラムに切り替わります。
- プログラム9(Enhancedモードを除く)を選択した場合は、**[DSP]**表示は点灯しません。

### ご注意

- リスニングルームの音響特性は、音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内に反響しやすい物体をできるだけ置かないようにしてください。
- モノラルソースをPRO LOGIC/NORMAL、PRO LOGIC/ENHANCEDやPRO LOGIC II Movie音場で再生中は、センタースピーカーからのみ音が出ます。フロントやリアスピーカーからは音は出ません。ただし、セットメニューの「1A CENTER」がNONIに設定されているときは、センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出ます。
- モノラルソースを音場プログラム4(Game、Concert Video)および5~8で再生した場合、ソースの音声はセンタースピーカーから出ます。フロントとリアスピーカーからは、シネマDSPの効果音(反射音)のみ出ます。
- 本機に入力する音声信号と、選んだ音場プログラムの組み合わせによっては、特定のスピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。(映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。)詳しくは「入力信号と再生スピーカー対応表」をご覧ください。(73ページ)
- DVDモード時にDISC DIRECT機能をONに設定すると、音場プログラムの設定が再生音に反映されません。(41ページ)

## ■ 入力信号形式のちがいによる音場サブプログラム名一覧

プログラムNo. 7～9では入力信号の種類によって、デコーダーと音場サブプログラム名が自動的に選ばれます。

No.	入力信号 プログラム	2 チャンネル	5.1 チャンネル			6.1 チャンネル*		
		アナログ、PCM、 ドルビーデジタル、 DTS、AAC	ドルビー デジタル	DTS	AAC	ドルビーデジタル +マトリクス6.1	DTS +マトリクス6.1	AAC +マトリクス6.1
7	MOVIE THEATER 1	70 mm Spectacle	DGTL Spectacle	DTS Spectacle	AAC Spectacle	Spectacle 6.1	Spectacle 6.1	Spectacle 6.1
		70 mm Sci-Fi	DGTL Sci-Fi	DTS Sci-Fi	AAC Sci-Fi	Sci-Fi 6.1	Sci-Fi 6.1	Sci-Fi 6.1
8	MOVIE THEATER 2	70 mm Adventure	DGTL Adventure	DTS Adventure	AAC Adventure	Adventure 6.1	Adventure 6.1	Adventure 6.1
		70 mm General	DGTL General	DTS General	AAC General	General 6.1	General 6.1	General 6.1
9	DOLBY DIGITAL	—	Normal	—	—	Matrix 6.1	—	—
		—	Enhanced	—	—	Enhanced 6.1	—	—
	DTS DIGITAL SUR	—	—	Normal	—	—	Matrix 6.1	—
		—	—	Enhanced	—	—	Enhanced 6.1	—
	AAC DIGITAL SUR	—	—	—	Normal	—	—	Matrix 6.1
		—	—	—	Enhanced	—	—	Enhanced 6.1
	PRO LOGIC	Normal	—	—	—	—	—	—
		Enhanced	—	—	—	—	—	—
PRO LOGIC II	Movie	—	—	—	—	—	—	
	Music	—	—	—	—	—	—	

\* マトリクス6.1デコーダーが作動していることを示しています。

### ※ ヒント

- マトリクス6.1デコーダーの選択をAUTOに設定した場合は、ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ES ソフトが再生されると、ドルビーデジタル+マトリクス6.1またはDTS+マトリクス6.1デコーダーが作動し、デコーダーに対応した音場プログラムが選択されます。
- マトリクス6.1デコーダーが作動している場合は、ドルビーデジタルやDTS、AAC 5.1チャンネル音声をバーチャルリアセンタースピーカーから再生できます。この場合、音場サブプログラム名は6.1チャンネルに対応するプログラムに変わります。
- 6.1チャンネルソース再生中にマトリクス6.1デコーダーをOFFにすると、プログラム名は5.1チャンネルに対応するプログラムに変わります。

## ■ PRO LOGIC IIを選ぶ

音場プログラムNo. 9でPRO LOGIC IIを選択すると、2チャンネルソースを仮想的に多チャンネル化してお楽しみいただけます。

### (2チャンネルソースを再生中)

#### 1 AMPキーを押す。

#### 2 DD/DTSキーを押す。

前回再生した音場サブプログラムが本体ディスプレイに表示されます。

#### 3 SELECTキーを繰り返し押し、PRO LOGIC IIを選ぶ。

#### 4 DD/DTSキーを押して、ソースに合った音場サブプログラムを選ぶ。

PRO LOGIC II Movie↔PRO LOGIC II Musicと交互に切り替わります。

#### ※ ヒント

- 本体のDSP▲/▼キーでも、PRO LOGIC II MovieやPRO LOGIC II Musicを選択できます。

#### ご注意

- 2チャンネル音声以外の信号は、DOLBY PRO LOGIC IIデコーダーでは再生できません。

## ■ ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESソースを再生する

MATRIX6.1キーを押して、ドルビーデジタル+マトリクス6.1またはDTS+マトリクス6.1デコーダーを作動させることにより、リアL、Rチャンネルからリアセンターチャンネルをつくり出し、バーチャルリアセンタースピーカーから音を出すことができます。

MATRIX6.1キーを押すごとに、AUTO(自動判別)→Matrix6.1(マトリクス音声)→OFF→AUTO→...の順にディスプレイ表示が切り替わります。

**AUTO:** 信号によって、ドルビーデジタル+マトリクス6.1音声とDTS+マトリクス6.1音声に自動的に切り替わります。バーチャルリアセンタースピーカーは、5.1チャンネルソースには作動しません。

**Matrix6.1:** 入力ソースをマトリクス6.1デコーダーで、6チャンネル再生しているときは、このモードになります。バーチャルリアセンタースピーカーは、5.1チャンネルソース再生中に使用できません。

**OFF:** マトリクス6.1デコーダーは作動しません。バーチャルリアセンタースピーカーからは音は出ません。

#### ※ ヒント

- マトリクス6.1デコーダー作動中には、「MATRIX」表示が本体ディスプレイに点灯します。

#### ご注意

- ドルビーデジタルサラウンドEXもしくはDTS ESディスクには、本機が自動的に認識できる信号(フラグ)が含まれていない場合があります。このようなディスクを6.1チャンネルで再生するには、MATRIX6.1キーを押して、Matrix6.1を選択してください。
- 下記の場合には、MATRIX6.1キーを押しても6.1チャンネル再生はできません。
  - セットメニューの「1C REAR LR」をNONIに設定している。
  - 音場効果が「切」(ステレオ再生)になっている。
  - ヘッドホンを接続している。
  - ドルビーデジタルKARAOKE方式のソースを再生している。
  - 音場プログラムで5ch Stereoを選んでいる。
- 本機をスタンバイ状態にしてからもう1度電源を入れると、上記設定はAUTOに戻ります。

## ■ フロントスピーカーだけで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

セットメニューの「1C REAR LR」をNONIに設定し、かつ音場効果をONにすると、バーチャルシネマDSP音場を楽しめます。

入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでフロントL、Rスピーカーから音が出ます。

#### ※ ヒント

- バーチャルシネマDSPがONのときは、「VIRTUAL」表示が本体ディスプレイに点灯します。

#### ご注意

下記の場合には、セットメニューの「1C REAR LR」がNONIに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。

- 5ch StereoやPro Logic Normal、DOLBY DIGITAL Normal、DTS Normal、AAC Normal、Pro Logic II音場プログラムを選んでいる。
- 音場効果が「切」(STEREO)になっている。
- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
- テストトーンを使用している。
- ヘッドホンを接続している。(この場合はサイレントシターになります。)

## ■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ (サイレントシアター)

ステレオ音声再生していないときにヘッドホンを本体の **○SILENT** 端子に接続すると、マルチスピーカーによる音場プログラムをヘッドホンで擬似的に再現できる、サイレントシアターで音声を楽しめます。(音場効果がオフのときは通常のステレオ再生になります。)

### ※ ヒント

- サイレントシアターがオンのときには、「SILENT」表示が本体ディスプレイに点灯します。

### ご注意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、サイレントシアターは作動しません。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネル音声とミックスされて、ヘッドホンから出力されます。
- 音場効果のオン/オフにかかわらずヘッドホンを接続すると、どのスピーカーからも音は出ません。

## ■ 通常のステレオ音声で再生するには

STEREOキーを押して、本体ディスプレイに「STEREO」を表示させます。音場効果が「切(オフ)」になり、通常のステレオ再生に戻ります。STEREOキーをもう1度押すと、音場効果が「入(オン)」になります。

### ご注意

- 音場効果をオフにすると、センタースピーカーとリアL、Rスピーカーからは音は出ません。
- 音場効果をオフにしたり、セットメニューの「4 D.RANGE」をMINIに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- LFEチャンネル音声は、セットメニューで「1D BASS」を設定すると、フロントL、Rスピーカーまたはスーパーウーファーから出力されます。
- 音場効果が「オフ」のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、ダイナミックレンジが圧縮され、セットメニューの「1 SPEAKER SET」で設定したチャンネルの音声はフロントL、Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、フロントL、Rスピーカーの音量バランスが乱れることがあります。
- セットメニューの「1D BASS」をBOTH、または「1B FRONT」をSMALLに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます。

## ■ 入力信号情報を表示する

ステレオ再生中、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示できます。  
(ステレオ音声再生中)

### 1 AMPキーを押す。

### 2 ∨ キーを押す。

入力信号の情報が表示されます。

### ※ ヒント

- (Format): 入力信号の信号フォーマット。デジタル入力を認識できない場合は、アナログモードに設定されます。

入力信号	表示
アナログ音声	Analog
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
上記以外のデジタル信号	Unknwn Digital (Unknown Digital)

- fs: 入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が測定できない場合は、unknownと表示されます。
- (Audio Channels): 入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル/DTS/AAC入力時のみ)。例えば、「in: 3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/リア2チャンネル/LFE」を示しています。また、二カ国語放送などの主+副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。
- rate (bit rate): 入力信号の1秒あたりのデータ量[ビットレート](ドルビーデジタル/DTSのみ)。ビットレートが測定できない場合は、「unknown」と表示されます。
- flg (flag): 入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号[フラグ](ドルビーデジタル/DTSのみ)。フラグが判別できなかった場合は、「None」と表示されます。

## 48kHzを超えるデジタル信号についてのご注意

本機のデジタル入力端子には、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号を入力することができます。詳しくは、デジタル入力端子に接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、下記の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。フロントスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオ音声が出ます。
- 再生中にはセンター、リアL、Rスピーカーの音量レベルは調節できません。
- セットメニューの「1 SPEAKER SET」の設定によっては、スーパーウーファーからも音が出る場合があります。

# 外部機器で録音/録画する

録音レベルの調節や操作は、各録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

- 1** 本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 2** 録音/録画したい入力ソースを選ぶ。  
入力ソースの選択方法は「音声/映像を再生する」(22ページ)場合と同じです。
- 3** ソースを再生する。  
FM/AM放送の番組を録音したいときは、放送局を選択します。
- 4** 録音/録画を開始する。

## ご注意

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をおこなってください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- 選んだ入力ソースと同じ名前の出力(Rec)端子からは、信号は出力されません。(例: VCR入力端子から入力した信号はVCRの出力端子から出力されません。)
- 本機の音場効果を加えた音を録音することはできません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- DVDモード時に再生した映像を録画する場合には、GUI画面を表示しないでください。GUI画面を表示するとその画面も一緒に録画されてしまいます。
- デジタル接続で録音する場合はDVDモード時のカラオケボーカル機能やダイアログエンハンサー機能は動きません。(36~37ページ)

## ■ DTSソフトの録音についてのご注意

DTS信号をデジタル録音しても、雑音だけが録音されません。

## ■ タイマー再生/録音する

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、そちらの取扱説明書もあわせてご覧ください。

## ※ ヒント

- タイマー再生/録音時には、本機のメモリーに記憶された内容(入力ソース等)が反映されます。

## ご注意

- タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、音量を絞ってください。

# ディスクについて

## 再生できるディスク

本機は下記のディスクを再生できます。本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、それ以外のディスクは使用しないでください。



本書内では、下記のマークを使用しています。

DVDビデオ	DVDオーディオ	ビデオCD	音楽CD
<b>DVD-V</b>	<b>DVD-A</b>	<b>VCD</b>	<b>CD</b>

### ご注意

- 本機は下記のディスクを再生できません。フォトCD、CD-ROM、DVD-ROM、SVCD、CDVなど。(DVD-R、DVD-RW、DVD+RWについてはディスクによっては再生できる場合があります。)
- 信用できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。



- DVDオーディオ、DVDビデオ、ビデオCDの中には操作や機能が本書の記載と異なる場合があります。これはソフト制作者の意図によるもので、本機の故障ではありません。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。
- 本機はビデオ信号方式がPALのディスクの映像を再生できません。

## リージョンコードについて

一般のDVDプレイヤーとDVDビデオディスクにはリージョンコード(発売地域ごとに割り当てられた識別番号)が決められています。本機では下表のディスクが再生できます。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。

仕向	本機のリージョンコード	再生できるディスクのリージョンコード
日本		 またはリージョンコード2も含むリージョンのディスク

## ディスクのお取り扱いについて

- ディスクを持つときには、ディスクの縁や真中の穴を持つようにして、表面に触れないでください。

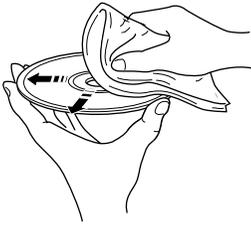


- 再生時以外はディスクをトレイに入れたままにしないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。

### 注意



- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。その際、レコードクリーナーやシンナーなどを使わないでください。



- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。

## MP3の再生について

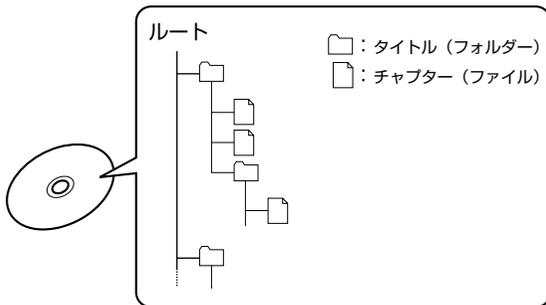
本機はコンピューターなどでCD-RやCD-RWに録音したMP3形式の音声を再生できます。ただし、録音状態によっては再生できないことがあります。

MP3形式で録音したディスクは下記の特長があります。

### ディスク構成

複数のアルバムCDを一枚のディスクに録音できます。各フォルダーは“タイトル”として、また、各フォルダーに含まれるファイルは“チャプター”として記憶されます。

例：)



### 聞きたいチャプターからの再生

数字キーでチャプターを選択してから(「特定のトラックを選択する(34ページ)」を参照)、ENTERキーを押すと、聞きたいチャプターから再生できます。

### リピート再生

チャプターリピートおよびタイトルリピート再生ができます。(45ページ)

### ※ ヒント

- ビットレートは32kbpsから320kbpsに対応しますが128kbpsに設定することをおすすめします。
- サンプリング周波数を44.1kHzに設定することをおすすめします。(32kHzには対応しません。)

### ご注意

- MP3ディスクではプログラム再生およびランダム再生はできません。
- チャプターは、録音時に意図した順番通りに再生できない場合があります。

再生中に下図のようにディスク情報をGUI画面にて表示できます。

全チャプター番号

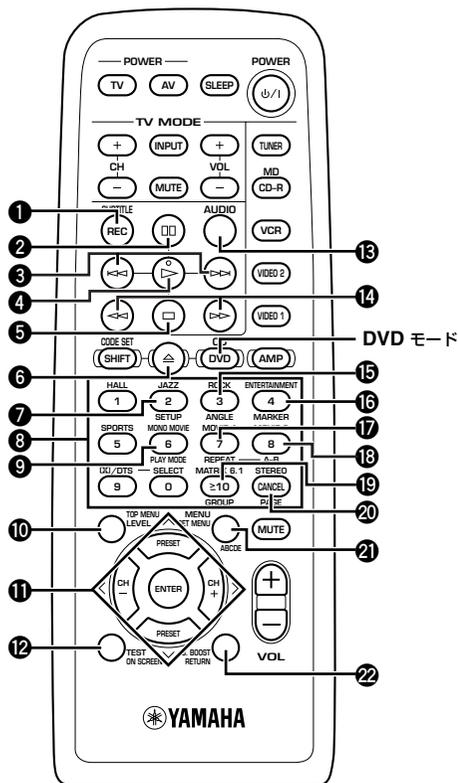


現在のチャプター番号 経過時間(内容変更はできません)

# リモコンのキー名称とはたらき (DVDモード)

本機のディスク操作をするときのリモコン各部の名称とはたらきについて説明します。ディスク操作をするときには最初にDVDモードキーを押してください。

- リモコンの緑色で表示されたキーはDVDモード時の操作キーです。
- SHIFTキーを押しながら、7・9・15・16・17・18・19・20の各キーを押すと緑色で記載された機能に切り替わります。



## 1 サブタイトルキー

DVDの字幕言語を切り替えます。

## 2 一時停止キー

再生を一時停止します。

## 3 (スキップ) キー

押すごとにディスクトラックの頭出しをします。

## 4 (再生) キー

ディスクを再生します。

## 5 (ストップ) キー

再生を停止します。

## 6 (ディスク開閉) キー

トレイを開閉します。

## 7 <sup>セットアップ</sup> SETUPキー

初期設定画面を表示します。

## 8 <sup>キャンセル</sup> 数字/CANCELキー

数字を入力します。/ モードや設定を取り消します。

## 9 <sup>プレイ モード</sup> PLAY MODEキー

「通常再生」「プログラム再生」「ランダム再生」を切り替えます。

## 10 <sup>トップ メニュー</sup> TOP MENUキー

ディスクメニューを表示します。

## 11 <sup>エンター</sup> へ、∨、く、>/ENTERキー

DVDモードの選択や設定などを行います。

## 12 <sup>オン スクリーン</sup> ON SCREENキー

GUI画面を表示します。

## 13 <sup>オーディオ</sup> AUDIOキー

DVDの音声言語を切り替えます。

## 14 <<、>> キー

早送りまたは早戻しをします。

## 15 <sup>アングル</sup> ANGLEキー

マルチアングルが記録されているディスクで、角度を切り替えます。

## 16 <sup>マーカー</sup> MARKERキー

見たい(聴きたい)箇所を記憶します。

## 17 <sup>リピート</sup> REPEATキー

繰り返し再生します。

## 18 A-Bキー

指定した2点間を繰り返し再生します。

## 19 <sup>グループ</sup> GROUPキー

DVDオーディオのグループを選択します。

## 20 <sup>ページ</sup> PAGEキー

DVDオーディオの静止画を選択します。

## 21 <sup>メニュー</sup> MENUキー

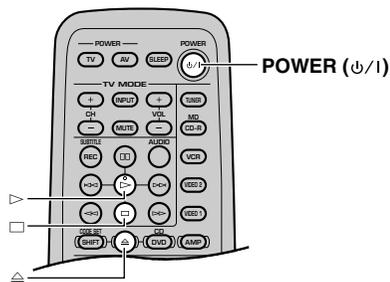
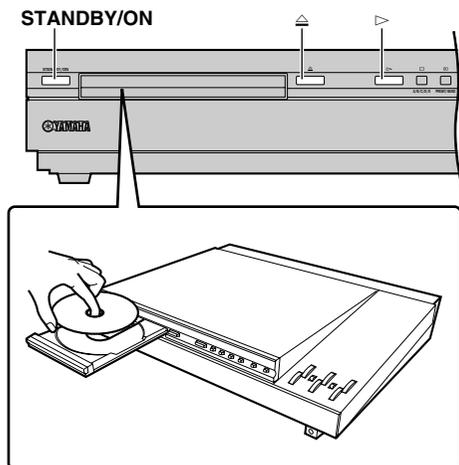
ディスクメニュー画面を表示します。

## 22 <sup>リターン</sup> RETURNキー

メニューを一つ手前に戻します。

# ディスクを再生する

## 基本操作



- 1 本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWER (⏻) キーを押して電源を入れる。
- 2 本体またはリモコンの⏏キーを押してディスクトレイを出す。
- 3 ディスクトレイにディスクを置く。
- 4 本体またはリモコンの▶キーを押す。  
ディスクトレイが閉まり、再生がはじまります。

### ※ ヒント

- メニュー画面に **DVD-A**、**DVD-V**、**VCD** が表示した場合は、「ディスクメニューを使って再生する」(39ページ)をご覧ください。

### ご注意

- 本機がDVD再生を終えると、再生を止めるか、メニュー画面を表示します。
- 本機は、ファイナライズ\*されていないCD-RやCD-RWのディスクを再生できません。
- \* 音楽用CD-R/CD-RWの再生対応機器などで再生できるように処理すること。

## 再生を止める

- キーを押す。

### 続き再生メモリー機能

本体ディスプレイに“▶”が点滅しているときは、止めた位置が記憶されています。

“▶”点滅中に▶キーを押すと、止めた位置から再生が始まります。続き再生メモリー機能を解除するには□キーをもう1度押して“▶”表示を消します。

DVDビデオ再生時にはあらずじりプレイ機能の画面が表示されます。

### ご注意

- ディスクトレイを出すと、続き再生メモリー機能は解除されます。

### あらずじりプレイ機能 **DVD-V**

下記の画面がテレビ(モニター)に表示されます。

再生ボタンを押すと、あらずじりプレイになります。

表示中に▶キーを押すと、再生を止めた位置までの各チャプターの冒頭を数秒間再生した後、止めた位置から再生が始まります。(同一タイトル内でのみ働きます。)

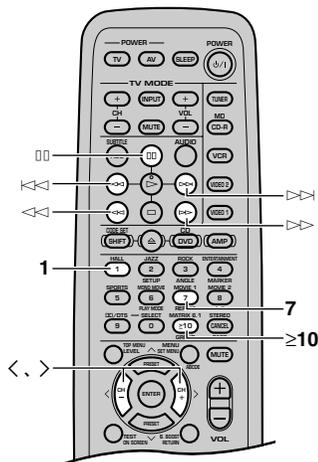
▶キーを押さずに放置しておくと画面が消え、止めた位置から再生が始まります。

### ご注意

- この機能が働かないDVDビデオディスクもあります。
- 続き再生メモリー機能を取り消すと、あらずじりプレイ機能も取り消されます。

## 使い終わったら

本体またはリモコンの⏏キーを押して、ディスクをトレイから出して、本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWER(⏻)キーを押します。



### ■ 番組・場面・曲を飛び込す (スキップ)

リモコンの  $\gg$  キーまたは本体の  $\gg/\gg$  キーを押すと、スキップしながら先へ進みます。また、リモコンの  $\ll$  キーまたは本体の  $\ll/\ll$  キーを押すと、スキップしながら戻ります。リモコンの  $\ll$  キーまたは本体の  $\ll/\ll$  キーを一回押すと再生中のチャプター/トラックの頭に戻ります。

#### ご注意

- プレイバックコントロール機能を使ってビデオCDを再生する場合は、スキップ機能は上記のように動かないことがあります。(39ページ)

### ■ 特定のトラックを選択する

**VCD** **CD**

数字キーでご希望のトラック番号を入力します。

例:(トラック17を選ぶには)

**1**  $\geq 10$ キーを押す。

**2** 1キーを押す。

**3** 7キーを押す。

### ■ 早送り・早戻しする (サーチ)

リモコンの  $\ll$  または  $\gg$  キーを押すか本体の  $\ll/\ll$  または  $\gg/\gg$  キーを押し続ける。

$\ll$  ( $\ll/\ll$ )キー:早戻しする

$\gg$  ( $\gg/\gg$ )キー:早送りする

#### ※ ヒント

- 本体では押し続けると速くなりますが、リモコンでは繰り返し押ししても、押し続けても速くなります。

#### ご注意

- ドルビーデジタルやDTSのディスクを再生中に、早送りや早戻しをした場合には、入力モードは自動的にANALOGに切り替わります。このとき、入力モードを任意に選ぶことはできません。

### ■ 静止 (一時停止) する

再生中  $\|\|$  キーを押す。

$\triangleright$  キーを押すと、通常再生に戻ります。

### ■ コマ送り・コマ戻し

**DVD-A** **DVD-V** **VCD**

#### 静止(一時停止)中

$\langle$  または  $\rangle$  キーを押す。

$\langle$  キー:戻る

$\rangle$  キー:進む

- $\triangleright$  キーを押すと、通常再生になります。
- 押すたびに1コマずつ送ったり戻ったり、また、押し続けると、連続してコマ送りしたり戻したりします。
- $\|\|$  キーを押してもコマ送りできます。
- DVDオーディオディスクでは、動画部でのみコマ送り・コマ戻しできます。

#### ご注意

- ビデオCDでは後戻りできません。

### ■ スロー再生する

**DVD-A** **DVD-V** **VCD**

#### 静止(一時停止)中

リモコンの  $\ll$  または  $\gg$  キーを押すか本体の  $\ll/\ll$  または  $\gg/\gg$  キーを押し続ける。

$\ll$  ( $\ll/\ll$ )キー:戻る

$\gg$  ( $\gg/\gg$ )キー:進む

- $\triangleright$  を押すと、通常再生になります。
- 本体では押し続けると速くなりますが、リモコンでは繰り返し押ししても、押し続けても速くなります。

#### ご注意

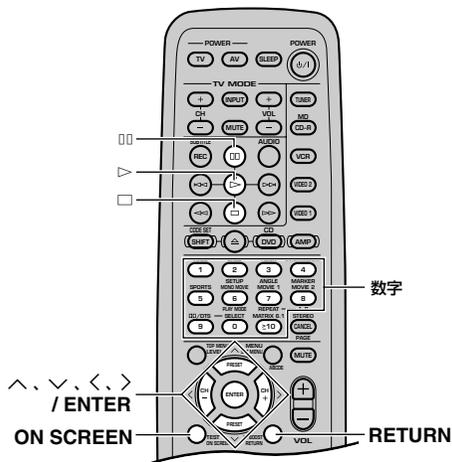
- ビデオCDでは後戻りできません。

# 絵表示(GUI画面)を使って操作する

ジーユーアイ グラフィカル ユーザー インターフェイス

## GUI(Graphical User Interface)とは

「画面を見ながら操作ができる」ことを意味し、本機の場合はディスクや本機の情報などを表示するテレビ(モニター)画面を「GUI画面」と呼びます。情報を確認しながら内容を変更できます。



## GUI画面の操作方法

**1** ON SCREENキーを押して、下記の①②③から選ぶ。

ON SCREENキーを押すたびにGUI画面が下記のように切り替わります。

① <ディスク情報画面>



② <本機情報画面> (再生設定)



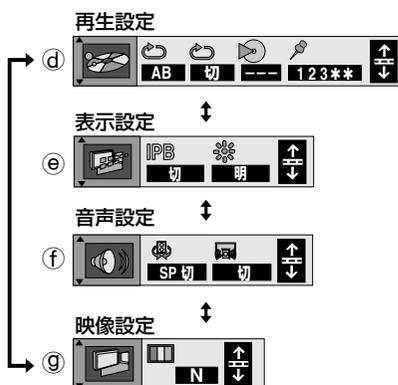
③ <チャトル画面>



GUI表示なし

(②を選んだ場合には)

△または▽キーを押して項目を切り替えて下記の4項目から選ぶ。



**2** △または▽キーを押して、調整したい項目を選ぶ。  
選択した項目がハイライト(明るく表示)されます。

**3** △、▽、◀、▶キーを押して設定を変更する。  
変更できないときは、ENTERキーまたは△キーを押してください。

ディスクにより、チャプターを選ぶときには、数字キーでも変更できる場合があります。

## ■ 画面表示を消すには

RETURNキーを数回押して、GUI画面を消す。

### ◆ ご注意

• ディスクにより、停止中は操作できない場合があります。

## ■ GUI画面の位置を変えるには

**1** △または▽キーで右端のアイコンを選ぶ。



**2** △または▽キーを押して、GUI画面を動かす。

ディスクを再生する

## ■ ディスク情報画面の表示例

例 DVDビデオの場合



アイコン	内容
	タイトル番号 <b>DVD-V</b> トラック番号 <b>DVD-A</b> <b>VCD</b> <b>CD</b>
	チャプター番号 <b>DVD-V</b>
	グループ番号 <b>DVD-A</b>
	経過時間 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 数字キーで指定した時間から再生します。例)1時間46分50秒から再生するときには[1]→[4]→[6]→[5]→[0]→[ENTER]を押します。 時間表示 <b>DVD-A</b> <b>VCD</b> <b>CD</b> 内容変更はできません。 ↳ トラックの経過時間 ↳ トラックの残り時間 ↳ ディスクの残り時間
	音声チャンネル <b>VCD</b> チャンネルを選ぶとそのチャンネルから音が出ます。 (右左) (左) (右) LR ↔ L ↔ R
例) DVDビデオ 	音声番号 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> ① オーディオトラック番号 ② 音声/字幕言語 (右記 A) ③ 音声属性 (右記 B)
	カラオケボーカル「入」「切」 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> (カラオケDVDのみ) DISC DIRECT機能がオンのときのみ有効です。 ソロ:切↔入 デュエット: 切↔V1+V2↔V1↔V2

アイコン	内容
	<b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> ① 字幕「入」「切」 字幕を「入」「切」します。 ② 字幕言語 番号を選ぶとその字幕を表示します。
	アンクル番号 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 番号を選ぶとそのアンクルを再生します。
	プレイバックコントロール (PBC) 「入」「切」表示 <b>VCD</b> (PBC対応のみ) 内容変更は出来ません。
	静止画番号 <b>DVD-A</b> 番号を選ぶとその画像を再生します。

A 音声/字幕言語
日: 日本語      伊: イタリア語      露: ロシア語 英: 英語        西: スペイン語      韓: 韓国語 仏: フランス語      蘭: オランダ語      *: その他 独: ドイツ語      中: 中国語

B 音声属性
LPCM/PPCM (パケットPCM) / <b>Dolby Digital/DTS/MPEG</b> : 信号タイプ k (kHz): サンプリング周波数 b (bit): ビット数 ch(channel): チャンネル数 例: <b>3/2.1ch</b>
1: スーパーウーファー (スーパーウーファー信号が入力していないときは表示されません。) 0: リアチャンネルは使用できません。 1: リアチャンネル(モノラル) 2: リアチャンネル(左、右) 1: フロントチャンネル(モノラル) 2: フロントチャンネル(左、右) 3: フロントチャンネル(左、右)+センター

### ◆ ご注意

- ディスクによっては表示が異なることがあります。
- プログラム再生中やランダム再生中には、ディスクの残り時間は表示されません。
- プレイバックコントロール機能を使ってビデオCD再生する場合には、トラック番号や時間は表示されません。

## ■ 本機情報画面の表示例

### 再生設定

例 DVDビデオの場合



アイコン	内容
	<b>A-B リピート再生 (46ページ)</b> <b>DVD-A DVD-V VCD CD</b> 再生中、ENTERキーを押すたびに「始点を指定→終点を指定→再生」します。 取り消すにはENTERキーを押します。
	<b>リピート再生 (45ページ)</b> <b>DVD-V</b> C:(チャプター) T:(タイトル) 切:(通常再生) <b>DVD-A VCD CD</b> T:(トラック) A:(ディスク全体)/G:(グループ全体) 切:(通常再生)
	<b>再生モード表示</b> <b>DVD-A VCD CD</b> 内容変更はできません。 RND:ランダム再生 PGM:プログラム再生 ---:通常再生 ALL:オールグループ <b>DVD-A</b>
	<b>マーカー</b> <b>DVD-A DVD-V VCD CD</b> もう一度再生したいところにマークをつけます。(44ページ) 最大5箇所 再生中、<または>キーを押し、マークをつけたいところでENTERキーを押します。 マークを呼び出すには<または>キーでマークを選び、ENTERキーを押します。 マークを取り消すには<または>キーでマークを選び、CANCELキーを押します。

### 表示設定

例 DVDビデオの場合



アイコン	内容
	<b>IPB表示</b> <b>DVD-V</b> 「入」↔「切」 静止(一時停止)時の映像の種類(I/P/B)を表示します。(71ページ)
	<b>FLディマー</b> 本体ディスプレイの明るさを調節します。 明 ←→ 暗 ←→ オート ↑ オートに設定すると、映像が収録されているディスクを再生中には暗くなります。一時停止などの操作をすると、一時的に明るくなります。

### 音声設定

例 DVDビデオの場合



アイコン	内容
	内容変更はできません。
	<b>ダイアログエンハンサー 「入」「切」</b> <b>DVD-V</b> (ドルビーデジタル/DTS 3ch 以上のディスク) DISC DIRECT機能がオンのときのみ有効です。 「入」を選ぶとセンターチャンネルのセリフの音量が上がります。

ディスクを再生する

## 映像設定



アイコン	内容
	<b>画質モード</b> <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> <b>VCD</b> N: 通常画質 C: シネマ画質(映画鑑賞に適した画質) U: ユーザー画質 ユーザー画質を調節するには ① ユーザー画質モードを選びます。 ② くまたは > キーで変更したい下記の項目を選びます。 ③ へまたは < キーで設定を変更します。 Uを選ぶと下記の項目も表示されます。
	<b>コントラスト (-7~+7)</b> 映像の明るい部分と暗い部分に強弱をつけます。
	<b>明るさ (0~+15)</b> 画面全体を明るくします。(映像の明るさを調節します。)
	<b>カラー (-7~+7)</b> 色の濃さを調節します。

## プログレッシブがオンのときには



アイコン	内容
	<b>画質モード</b> <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> <b>VCD</b> N: 通常画質 C: シネマ画質(映画鑑賞に適した画質)
	<b>変換モード</b> プログレッシブ出力に変換する方式を素材に応じて使い分けます。 <b>Auto(標準)</b> : 映画再生に適した変換 <b>Video</b> : ビデオ素材に適した変換

## ■ シャトル画面の表示例



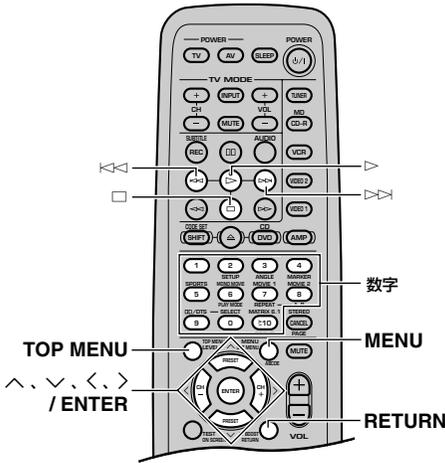
### ご注意

- DVDオーディオのスロー再生は、動画を再生しているときのみ可能です。

# いろいろな再生を楽しむ

## ディスクメニューを使って再生する

再生中、メニュー画面を呼び出してお好みのタイトル/チャプターにスキップしたり、音声/字幕などを切り替えたりできます。



DVD-A | DVD-V

### 1 再生中、TOP MENUまたはMENUキーを押す。

メニュー画面がテレビ(モニター)に表示されます。  
• ディスクによっては、再生をはじめると、自動的にメニュー画面が表示される場合があります。

### 2 ^、v、<、>キーで項目を選んでから、ENTERキーを押す。

(次々とメニューが表示されるときは、手順2を繰り返してください。)

## ■ ビデオCDのプレイバックコントロール(PBC)機能について(メニュー再生) | VCD

プレイバックコントロール機能のついたビデオCDを再生したときは、メニュー画面表示を見ながら、見たい場面や情報を選ぶことができます。

本書では、メニュー画面を使って再生することを、ビデオCDのメニュー再生と呼びます。

**数字キー:** お好みの項目を選びます。

**RETURN:** 前の画面に戻ります。

▷: 選んだ項目を再生します。

▷▷: 次の画面に移ります。

◁◁: 前の画面に戻ります。

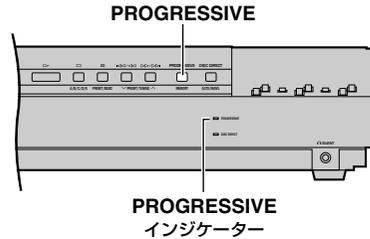
□: メニュー画面がテレビ(モニター)に映っている際に、プレイバックコントロール機能を取り消します。

### ご注意

- プレイバックコントロール機能は、プログラム再生中やランダム再生中には自動的に取り消されます。

## より高画質を楽しむ(プログレッシブ出力)

本機のコンポーネントビデオ出力端子Y、P<sub>B</sub>/C<sub>B</sub>、P<sub>R</sub>/C<sub>R</sub>はプログレッシブ出力に対応しているため、プログレッシブ入力対応のテレビを使用することで、高密度でちらつきのない高品質な映像が楽しめます。



本体のPROGRESSIVEキーを押す。  
PROGRESSIVEインジケータが点灯します。  
もう一度押すと解除されます。

### ご注意

- プログレッシブ出力を使用中に画面が中央からずれる場合には、「プログレッシブ出力中に画面の位置を調整する」をご覧ください。
- 4:3ソフトをプログレッシブ出力しながら16:9ワイド画面のテレビ(モニター)で再生する場合は、画像がスクリーン横いっぱいに広がって見えることがあります。その場合には、お使いのテレビ(モニター)に合った画面表示に変えてください。また、変更ができない場合は、プログレッシブ機能をオフにしてください。(インターレース出力になります。)
- プログレッシブ機能がオンの場合には、映像信号はコンポーネントビデオ端子からのみ出力されます。

一部のプログレッシブ(525p)入力対応のテレビ(モニター)は本機と完全な互換がとれていないため、プログレッシブ再生時に画像に乱れが生じる場合があります。その場合には、プログレッシブ機能をオフにして再生するか、本機と互換がある機器をご使用ください。なお、本機と互換があるヤマハの機器は下記のとおりです。  
モデル名: デジタルシネマプロジェクター YAMAHA DPX-1  
互換性についてご質問のある場合は当社のお客先ご相談センター(0570-01-1808)へお問い合わせください。

## ■ プログレッシブ出力中に画面の位置を調整する

テレビ(モニター)によっては、本機からのプログレッシブ信号出力により、画面が中央からずれる場合があります。位置調整はリモコンにて下記の手順でおこなってください。

### 1 00 キーを押して一時停止する。

### 2 「GUI画面の操作方法(35ページ)」の手順1で映像設定を選ぶ。

### 3 > キーを押して右端のアイコン( )を選ぶ。

### 4 位置を調節する。

数字キーの1を押すと左へ動き、3を押すと右へ動きます。

ディスクを再生する

例：



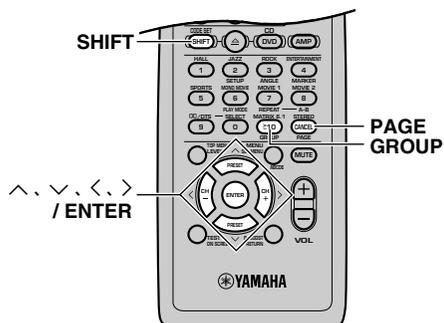
3を押すと右へ移動します。

- 移動させた画面を元の位置に戻すには、2を押してください。
- PROGRESSIVEキーを押すと通常再生(インターレース出力)に切り替わり、映像が中央にあるかどうかを確認できます。

### 5 調節した位置を次のようにして記憶させる。

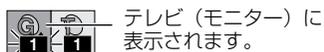
- キーを押してからSETUPキーを押し、セットメニューを表示させ、もう一度SETUPキーまたはRETURNキーを押します。

## DVDオーディオ特有の機能について DVD-A



### ■ グループを選んでトラックを再生する

#### 1 SHIFTキーを押しながら、GROUPキーを押す。



テレビ(モニター)に表示されます。

#### 2 へまたは∨キーでグループ番号を選び、ENTERキーを押す。

#### 3 へまたは∨キーでトラック番号を選び、ENTERキーを押す。

選んだグループのトラックが再生されます。

#### ※ ヒント

- グループ番号とトラック番号は数字キーで選ぶこともできます。

### ■ ボーナスグループを再生する

ディスクによっては、暗証番号を入力しないと再生できない「ボーナスグループ」を収録したものがあります。ディスクのジャケットなどもご参照ください。

(停止中)

#### 1 SHIFTキーを押しながら、GROUPキーを押す。



テレビ(モニター)に表示されます。

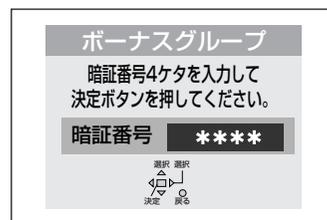
#### 2 へまたは∨キーでボーナスグループを選び、ENTERキーまたは>キーを押す。

例) ボーナスグループがグループ9に入っている場合



#### 3 数字キーで暗証番号(4ケタ)を入力し、ENTERキーを押す。

テレビ(モニター)表示例



#### 4 へまたは∨キーでトラックを選び、ENTERキーを押す。

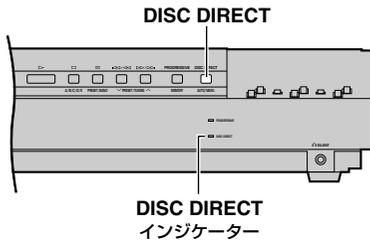
### ■ ページをめくる

DVDオーディオは写真ギャラリー、アーティスト自伝や歌集を載せた、「ページ」と呼ばれる情報画面を含んでいます。この画面が映っているときに、SHIFTを押しながらPAGEキーを押すと、別のページに移ることができます。(ページが変わるとディスプレイにページ数が表示されます。)

## 高音質な音声を楽しむ (ディスクダイレクト)

DVD-A DVD-V VCD CD

DISC DIRECT機能を作動させるとDVDオーディオディスクをマルチチャンネルで再生したり、サンプリング周波数192kHzで収録されたDVDオーディオディスクをそのままの高音質で再生できます。また、それ以下のサンプリング周波数のディスクの音質向上にも効果があります。



### DISC DIRECTキーを押す。

押すごとに、AUTO(自動判別)→ON→OFF→AUTO...の順にディスプレイ表示が切り替わります。

- **AUTO**: ディスクによって、DISC DIRECT機能のオン/オフを切り替えます。(オン: DVDオーディオディスク)
- **ON**: DISC DIRECT機能を入(オン)にします。
- **OFF(初期設定)**: DISC DIRECT機能を切(オフ)にします。

### ☀ ヒント

- DISC DIRECT機能がオンのときには本体ディスプレイのDISC DIRECTインジケータ―が点灯します。
- DISC DIRECT機能がオンのときのスピーカー設定についてはセットアップメニューの「スピーカー設定」(51ページ)をご参照ください。

### ⚠ ご注意

- セットアップ画面を表示中には、操作できません。(47ページ)
- マルチチャンネルで録音されていないディスクの再生時には、セットアップメニューのスピーカー設定に関わらず、フロントスピーカーからのみ音が出ます。

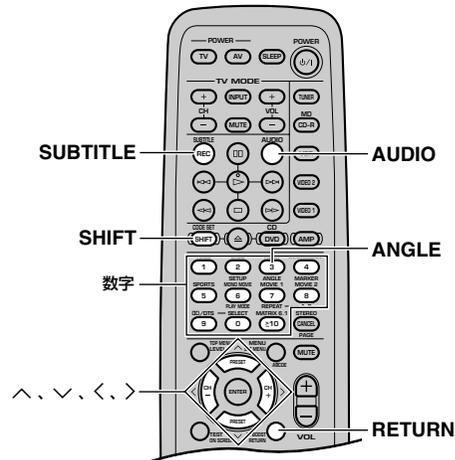
### DISC DIRECT機能がオンのときには

- 再生音に音場効果は加わりません。(音場効果を加えるためには、DISC DIRECTをOFFに設定してください。)
- セットメニューの設定は1E、5、9のみ有効です。(58ページ)
- 再生中にフロントスピーカー以外のスピーカーの音量レベルを調節できません。(63ページ)
- テストトーンによるスピーカーの音量レベルを調節できません。(アンプモード時)(21ページ)
- 本体ディスプレイのデコーダ―表示、PCM表示、入力信号チャンネル表示等は点灯しません。
- DVD専用のスピーカー設定に切り替わります。(51ページ)
- ヘッドホンを使用する場合には、セットアップメニューのスピーカー設定を「2チャンネル」に設定してください。(51ページ)
- ディスクによってはスーパーウーファーから音が出ない場合があります。

ディスクを再生する

## 音声、字幕言語、アングルを切り替える

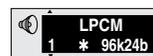
DVD-A DVD-V VCD



### ■ 音声を切り替える

(再生中)

#### AUDIOキーを押す。



テレビ(モニター)に表示されます。

- AUDIOキーを繰り返し押すか、へ、∨キーまたは数字キーを押してトラックを変えます。

### ☀ ヒント

- DVDオーディオ(動画部分以外)では、音声切り替わると、静止画表示中に流れる音の先頭に戻ります。
- DVDオーディオの場合、選んだ音声番号は1種類の音声しか収録されていない場合、通常、番号2まで表示します。
- カラオケディスクでは、ボーカルの「入」「切」ができます。詳しくはディスクのジャケットなどをご覧ください。

## ■ 字幕言語を切り替える

(再生中)

SUBTITLEキーを押す。



テレビ (モニター) に表示されます。

- 字幕言語を切り替えるには、SUBTITLEキーを繰り返し押しすか、へ、✓キーまたは数字キーを押してください。

### ※ ヒント

- 字幕言語が記録されていないときには“—”が表示されます。

### ご注意

- 切り替えた後は字幕が表示されるまでに少し時間がかかることがあります。

字幕を「入」「切」するには

- 1 SUBTITLEキーを押す。
- 2 (DVDオーディオ/DVDビデオの場合には) >キーを押す。
- 3 へまたは ✓ キーで「入」、「切」を選ぶ。

## ■ アングルを切り替える

(再生中)

SHIFTキーを押しながら、ANGLEキーを押す。



テレビ (モニター) に表示されます。

- アングルを切り替えるには、SHIFTキーを押しながら、ANGLEキーを繰り返し押しすか、へ、✓キーまたは数字キーを押してください。

## ■ 音声、字幕、アングルの画面表示を消すには

RETURNキーを押す

### ご注意

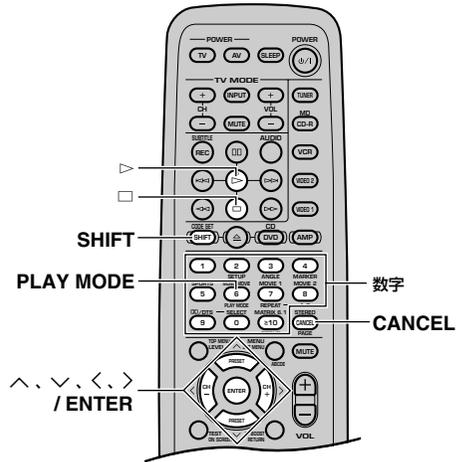
- ディスクによってはディスクメニューでのみ音声、字幕、アングルの切り替えができる場合があります。
- ディスクによっては、アングルの切り替えができない場合があります。

## 全てのグループを順に再生する (オールグループ再生) DVD-A

- 1 □ キーを押して再生を止める。
- 2 SHIFTキーを押しながら、PLAY MODEキーを押す。
- 3 ▷ キーを押す。

## お好みの順に再生する (プログラム再生) DVD-A VCD CD

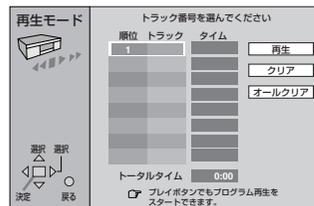
トラック予約で、ディスクから選んだお好みのトラックを最大32トラックまでお好きな順でお楽しみいただけます。



- 1 □ キーを押して再生を止める。
- 2 SHIFTキーを押しながら、PLAY MODEキーを繰り返し押しすして、プログラム画面を選択する。

キーを押すたびにテレビ(モニター)表示が下記のように切り替わります。

テレビ (モニター) 表示例：  
プログラム画面 (プログラム再生モード)  
お好みの順に再生する



ランダム画面 (ランダム再生モード)：  
順不同に再生する  
↓  
通常再生に戻る

### ※ ヒント

- PGM表示が本体ディスプレイに点灯します。

- 3 数字キーでトラック番号を入力する。

- 4** ▷ キーを押す。  
プログラム再生がはじまります。

※ ヒント

- 数字キーでグループやトラックを選ぶこともできます。

(DVDオーディオの場合)

- 手順2にオールグループ再生(全てのグループを順に再生)の画面が加わります。
- 手順4で へ または ｖ キーでグループを選び、ENTERキーを押したあと、へ または ｖ キーでトラックを選びENTERキーを押してください。

■ プログラム再生中に予約を変更・追加する

- 1** □ キーを数回押して、プログラム再生を止める。
- 2** へ または ｖ キーで項目(順位)を選ぶ。
- 3** 数字キーでトラック番号を入力する。

■ プログラム再生中に予約を取り消すには

- 1** □ キーを数回押してプログラム再生を止める。
- 2** へ または ｖ キーで取り消したい項目(順位)を選ぶ。
- 3** CANCELキーを押す。

ご注意

- ビデオCDのプレイバックコントロール機能は、プログラム再生中には自動的に取り消されます。

■ プログラム画面のページを上下に移動する

◀◀キーを押すと上へ、▶▶キーを押すと下へ、ページが移動します。

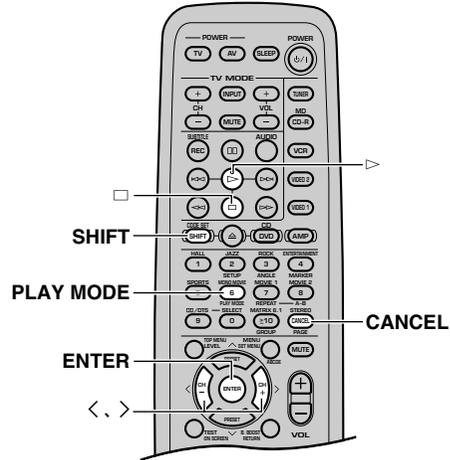
■ プログラム再生中に通常の再生に戻すには

- 1** プログラム再生中に、□ キーを数回押して再生を止める。
- 2** SHIFTキーを押しながら、PLAY MODEキーを2回押す。
- 電源を切るか、ディスクトレイを開けるか、入力ソースを切り替えると全ての予約が取り消されます。

順不同に再生する  
(ランダム再生)

DVD-A VCD CD

本機におまかせの順番で再生されます。



ディスクを再生する

- 1** □ を押して再生を止める。
- 2** SHIFTキーを押しながら、PLAY MODEキーを数回押す。  
RND表示が本体ディスプレイに点灯します。
- 3** ▷ キーを押す。  
ランダム再生が始まります。

## ■ ランダム再生中に通常の再生に戻すには

**1** ランダム再生中、**□** キーを数回押して再生を止める。

**2** **SHIFT**キーを押しながら、**PLAY MODE**キーを押す。

本体ディスプレイのRND表示が消灯します。

- ディスクトレイを開けると、ランダム再生モードは取り消されます。

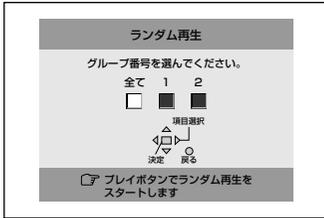
### ご注意

- ビデオCDのプレイバックコントロール機能は、ランダム再生中には自動的に取り消されます。

## ■ DVDオーディオのランダム再生

ランダム再生の手順2のときに、**<** または **>** キーでグループを選び、**ENTER**キーを押してください。

例) DVDオーディオ (グループが2までであるディスク)



### ※ ヒント

- 複数選べます。
- 数字キーで選ぶこともできます。

選択中に、選んだグループを取り消すには、**<** または **>** キーで取り消すグループを選んでから**CANCEL**キーまたは**ENTER**キーを押してください。

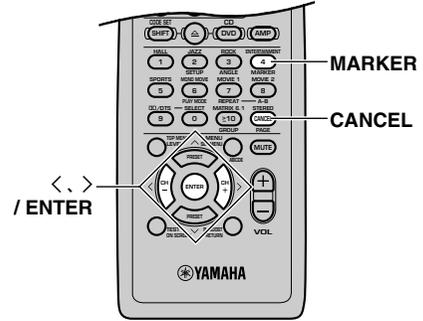
### ※ ヒント

- 数字キーで取り消す番号を入力しても取り消すことができます。

## お好みの位置を記憶させる (マーカー)

DVD-A DVD-V VCD CD

再び見たい(聞きたい)箇所マークを付けておくと、後でそこから再生することができます。(マーカーは5個まで付けられます。)

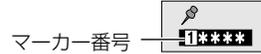


**1** **SHIFT**キーを押しながら、**MARKER**キーを押す。



**2** **<** または **>** キーで **\*** を選ぶ。  
選んだ **\*** がハイライトされます。

**3** **ENTER**キーを押す。  
選んだ **\*** がマーカー番号に変わります。



## ■ マークした位置から再生するには

**<** または **>** キーを押してマーカー番号を選び、**ENTER**キーを押します。

## ■ マーカーを取り消すには

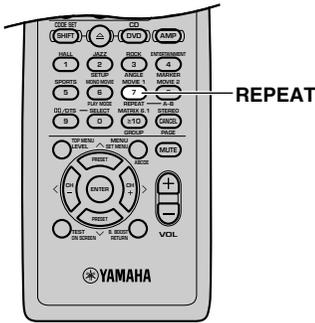
**<** または **>** キーを押してマーカー番号を選び、**CANCEL**キーを押します。

### ご注意

- 電源を切るか、ディスクトレイを開けるか、入力ソースを切り替えると全てのマーカーが取り消されます。

## 繰り返し再生する (リピート再生)

DVD-A DVD-V VCD CD



(再生中)

**SHIFTキーを押しながら、REPEATキーを押し、リピートモードを選択する。**

キーを押すたびに下記のようにディスプレイ表示が切り替わります。

DVD ビデオ

C : チャプター  
↓  
T : タイトル全体  
↓  
切 : 通常再生

例) DVDビデオ



DVDオーディオ/ビデオCD/CD

T : トラック  
↓  
A : オール(ディスク全体) (ビデオCD/CD)  
G : グループ全体 (DVDオーディオ)  
↓  
切 : 通常再生

## ■ お好みのトラックをリピート再生する (プログラムリピート再生)

DVD-A VCD CD

(プログラム再生(42ページ)中)

**SHIFTキーを押しながら、REPEATキーを押す。**

キーを押すたびに下記のようにディスプレイ表示が切り替わります。

DVDオーディオ/ビデオCD/CD

T : トラック  
↓  
A : オール (プログラム内容全体)  
↓  
切 : 通常のプログラム再生

例) CD



## ■ 順不同に繰り返し再生する (ランダムリピート再生)

DVD-A VCD CD

(順不同に再生(43ページ)中)

**SHIFTキーを押しながら、REPEATキーを押す。**

キーを押すたびに下記のようにディスプレイ表示が切り替わります。

DVDオーディオ/ビデオCD/CD

T : トラック  
↓  
A : オール (ディスク全体)  
↓  
切 : 通常のランダム再生

例) CD



### ※ ヒント

- REPEAT OFF以外のときは、本体ディスプレイに  が点灯します。
- 選択しているリピートモード名が本体ディスプレイに表示されます。

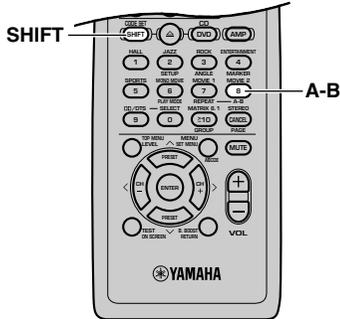
### ご注意

- DVDビデオによっては、繰り返し再生を正しくできないことがあります。
- プレイバックコントロール機能を使ったビデオCDのメニュー再生中は、繰り返し再生ができないことがあります。

## お好みの場所を繰り返し再生する (A-Bリピート再生)

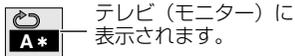
DVD-A DVD-V VCD CD

タイトルやトラック内でお好みの2点(A点とB点)を指定して、その2点間を繰り返し再生することができます。



(再生中)

### 1 SHIFTキーを押しながら、A-Bキーを押す。

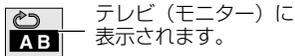


開始場所A点を指定します。

#### ※ ヒント

- 〻とAが本体ディスプレイに点灯します。

### 2 SHIFTキーを押しながら、A-Bキーを押す。



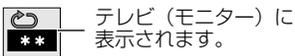
終了場所B点を指定し、A-Bリピート再生が始まります。

#### ※ ヒント

- 本体ディスプレイにBが追加点灯し、A点、B点間を繰り返し再生します。

## ■ A-Bリピート再生中に通常の再生に戻すには

SHIFTキーを押しながら、A-Bキーを押す。



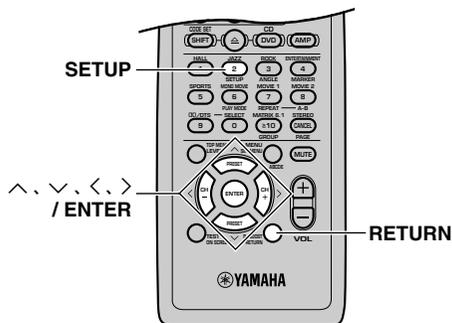
### ご注意

- DVDビデオによっては、A-Bリピート再生できないものがあります。
- DVDビデオのタイトルやDVDオーディオ/ビデオCD/CDのトラックをまたぐA-Bリピート再生はできません。

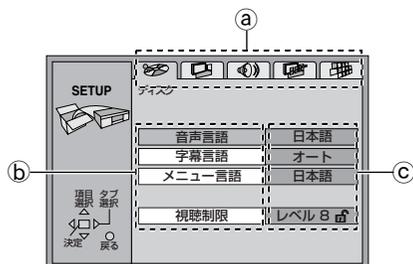
# セットアップメニューでDVDモードの設定を変更する

セットアップメニューで、お好みに合わせて設定を変更できます。

## 設定方法



- 1** SHIFTキーを押しながら、SETUPキーを押す。  
セットアップ画面がテレビ(モニター)に表示されます。



- ① タブ(メニュー項目)  
ディスク、映像、音声、画面表示、その他で構成される初期設定のメニュー項目です。このタブを選ぶことで、各項目の設定画面を呼び出します。
- ② 設定項目  
選択したタブ内の設定項目です。
- ③ 設定内容  
設定項目の設定状態を表示します。

- 2** 左または右キーで設定したいタブを選ぶ。



- 3** 上または下キーで設定項目を選び、ENTERキーを押す。  
設定内容画面が表示されます。

- 4** 上または下キーで設定内容を選び、ENTERキーを押す。  
ENTERキーを押すと、手順2の画面に戻ります。

- ひとつ前の操作画面に戻るには

RETURNキーを押す。

- 設定を終了するには

SHIFTキーを押しながら、SETUPキーを押す。

### ご注意

- セットアップ画面を表示すると自動的にDISC DIRECT機能がオンになります。なお、本設定を終了するとDISC DIRECT機能は、本設定をはじめる前の設定に戻ります。

- すべての設定を工場出荷時に戻すには

停止中、本体の [ ] キーと [ ] キーを同時に押す。

(テレビ(モニター)画面に"オールクリア"が表示されるまで2つのキーを押し続けます。)

## セットアップメニュー一覧表

アミのかかった項目は、工場出荷時の設定です。

メニュー項目	設定項目	設定内容
ディスク	音声言語 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 言語(音声)が選べます。	日本語 英語 オリジナル*1 その他****#2
	字幕言語 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 言語(字幕)が選べます。	オート*3 日本語 英語 その他****#2
	メニュー言語 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> メニューなど、テレビ画面に表示される言語が選べます。	日本語 英語 その他****#2
	視聴制限 <b>DVD-V</b> 視聴が制限できます。(50ページ)	レベル8 レベル7~1 レベル0 ロック解除 暗証番号変更 レベル変更 一時解除
映像	TV アスペクト お使いのテレビサイズに合った画面表示方法が選べます。	4:3 パン&スキャン 4:3 レターボックス 16:9
	スチルモード 静止画像の表示方法が選べます。	オート フィールド フレーム
	S端子出力S1/S2のモード 接続するテレビ(モニター)のSビデオ入力端子の種類に合わせて設定します。	S1 S2
音声	スピーカー設定 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 接続したスピーカーシステムに合わせて設定します。スピーカーの出力設定により、理想的な音空間を創ります。(51ページ)	マルチチャンネル スピーカーを3本以上接続するとき (スピーカーの有無やサイズ、ディレイタイム、チャンネルバランスの設定も必要となります。51ページ)  2チャンネル スピーカーを2本接続するときや、ドルビープロロジックデコーダーに接続するとき
	PCM ダウンサンプリング変換 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 接続に応じて著作権保護処理のされていないディスクの音声信号の出力方法が選べます。(50ページ)	しない する
	Dolby Digital <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 接続に応じて、ドルビーデジタルの信号をそのままの状態(Bitstream)で出力するか、デコーダーを通さなくても聞ける状態(PCM 2ch)に処理して出力するかが選べます。	Bitstream PCM
	DTS Digital Surround <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> 上記のドルビーデジタルと同様の選択を、DTS 信号に対して行えます。	Bitstream PCM
	音声のダイナミックレンジ圧縮 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> (ドルビーデジタルのみ) 小音量でも映画のセリフを聞き取りやすくします。	切 入
	早送り時の音声 <b>DVD-A</b> <b>DVD-V</b> <b>VCD</b> 早送りする時、音声がかき消えるようにする/しないが選べます。	あり なし
	画面メニュー言語 初期設定画面の言語や、操作時にテレビ画面に表示される言語が選べます。	日本語 English(英語)
画面メッセージ 操作時にテレビ画面にメッセージを表示する/しないが選べます。	入 切	

メニュー項目	設定項目	設定内容
その他	<b>DVDビデオモード</b> DVDオーディオディスクの中には、一部のDVDビデオプレーヤーでのみ再生できるDVDビデオの内容を含むものがあります。このDVDビデオの内容を楽しむには、このモードを「する」に設定してください。 なお、通常のDVDオーディオディスクを再生する場合は、「しない」に設定してください。	しない      する
	<b>デモモード</b> 「する」を選ぶと、テレビ画面上でデモンストレーション表示が始まります。(デモは、リモコン・本体のロキーなどを押すと停止し、設定は「しない」に戻ります。)	しない      する

※1「オリジナル」: ディスクの最優先言語が選ばれます。

※2「その他\*\*\*\*」: 数字キーで言語番号を入力します。(言語番号一覧表参照)

※3「音声言語」で選んだ音声はディスクに収録されておらず、代わりにその言語の字幕が収録されている場合には、字幕を表示します。また、音声は収録されている場合には、音声が出て字幕は表示されません。

## ■ 音声言語/字幕言語/メニュー言語について

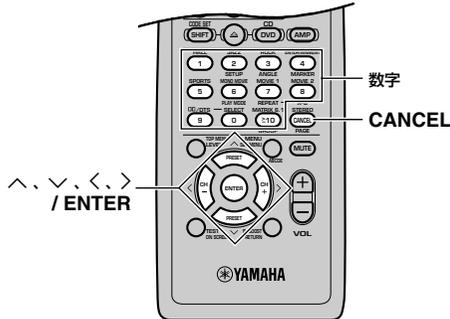
言語番号一覧表			
アイスランド	:7383	カンボジア	:7577
アイマラ	:6588	キルギス	:7589
アイルランド	:7165	ギリシャ	:6976
アゼルバイジャン	:6590	クルド	:7585
アッサム	:6583	クロアチア	:7282
アフアル	:6565	グアラニー	:7178
アフリカーンス	:6570	グジャラト	:7185
アブハジア	:6566	グリーンランド	:7576
アムハラ	:6577	グルジア	:7565
アラビア	:6582	ケチュア	:8185
アルバニア	:8381	ゲール(スコットランド)	
アルメニア	:7289		:7168
イタリヤ	:7384	コーサ	:8872
イディッシュ	:7473	コルシカ	:6779
インターリングア	:7365	サモア	:8377
インドネシア	:7378	サンスクリット	:8365
ウェールズ	:6789	ショナ	:8378
ウオロフ	:8779	シンド	:8368
ヴォラピュック	:8679	シンハラ	:8373
ウクライナ	:8575	ジャワ	:7487
ウズベク	:8590	スウェーデン	:8386
ウルドゥー	:8582	スロバキア	:8375
英語	:6978	スロベニア	:8376
エストニア	:6984	スワヒリ	:8387
エスペラント	:6979	スンダ	:8385
オーリヤ	:7982	スペイン	:6983
オランダ	:7876	ズールー	:9085
カザフ	:7575	セルビア	:8382
カシミール	:7583	セルボクロアチア	:8372
カタロニア	:6765	ソマリ	:8379
ガリチア	:7176	タイ	:8472
韓国(朝鮮)語	:7579	タタール	:8484
カンナダ	:7578	タミル	:8465
		タガログ	:8476
		タジク	:8471
		チェコ	:6783
		中国語	:9072
		チベット	:6679
		ティグリニア	:8473
		テルグ	:8469
		デンマーク	:6865
		トウイ	:8487
		トルクメン	:8475
		トルコ	:8482
		トンガ	:8479
		ドイツ	:6869
		ナウル	:7865
		日本語	:7465
		ネパール	:7869
		ノルウェー	:7879
		ハウサ	:7265
		ハンガリー	:7285
		バシキール	:6665
		バスク	:6985
		バシュト	:8083
		パンジャブ	:8065
		ヒンディー	:7273
		ビハール	:6672
		ビルマ	:7789
		フィジー	:7074
		フィンランド	:7073
		フェロー	:7079
		フランス	:7082
		フリジア	:7089
		ブータン	:6890
		ブルガリア	:6671
		ブルターニュ	:6682
		ヘブライ	:7387
		ベトナム	:8673
		ベロルシア(白ロシア)	
			:6669
		ベンガル(バングラ)	
			:6678
		ベルシャ	:7065
		ポーランド	:8076
		ポルトガル	:8084
		マオリ	:7773
		マケドニア	:7775
		マライ(マレー)	:7783
		マラッタ	:7782
		マラヤーラム	:7776
		マルタ	:7784
		マダガスカル	:7771
		モルダビア	:7779
		モンゴル	:7778
		ヨルバ	:8979
		ラオ	:7679
		ラテン	:7665
		ラトビア(レット)	:7686
		リトアニア	:7684
		リンガラ	:7678
		ルーマニア	:8279
		レトロロマンス	:8277
		ロシア	:8285

### ご注意

- セットアップメニューで設定した言語が、ディスクに収録されていない場合は、設定した言語で再生することはできません。

## 視聴制限 DVD-V

視聴制限はレベル0～8の9段階に設置できます。(数字が小さくなるにつれて視聴できなくなります。)



### ■ 視聴制限レベルを設定する (レベル8のとき)

お子さまなどに見せたくないDVDビデオを無断で再生されないように設定できます。暗証番号を入力しない限り、再生や設定の変更はできません。

レベル0～7のうちいずれかのレベルを選ぶと、暗証番号入力画面が表示されます。

#### 1 SHIFTキーを押しながら、SETUPキーを押す。

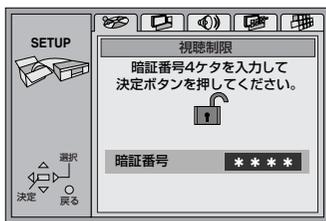
セットアップ画面がテレビ(モニター)に表示されます。

#### 2 ∨キーで「視聴制限」を選んで、ENTERキーを押す。

#### 3 数字キーで暗証番号(4ケタ)を入力し、ENTERキーを押す。

間違った数字を入力したときは、CANCELキーを押してください。

暗証番号は忘れないでください。



#### 4 もう一度、ENTERキーを押す。

(暗証番号が確定し、ロックがかかります。)

設定した視聴制限レベルを超えたDVDビデオを再生すると、メッセージがテレビ画面に表示されます。そのときは画面の指示に従ってください。

ENTERキーを押すと元の画面に戻ります。

### ■ 制限内容を変更する (レベル0～7のとき)

セットアップメニュー画面で「視聴制限」を選ぶと、暗証番号入力画面が表示されます。

#### 1 数字キーで暗証番号(4ケタ)を入力し、ENTERキーを押す。

ロック解除: 制限を解除してレベル8に戻す。

暗証番号変更: 暗証番号を変更する。

レベル変更: 制限レベルを変更する。

一時解除: 一時的に制限レベルを解除する。(入力をソースを切り替えるか、電源を切るか、ディスクトレイを開けるまで一時解除の状態が続きます。)

#### 2 ∨または∧キーで項目を選び、ENTERキーを押す。

### 視聴制限で設定した暗証番号を忘れたら

工場出荷時の設定に戻してください。(47ページ)

#### ご注意

- 暗証番号以外の設定も工場出荷時の設定に戻ります。

## PCM ダウンサンプリング変換

DVD-A DVD-V

接続した機器に合わせて、著作権保護処理のされていないディスクの高音質信号(サンプリング周波数96kHzまたは88.2kHz)の出力方法を選びます。

設定	接続機器 (88.2 kHz 以上の 信号への対応)	音声出力
しない	対応している	そのまま出力
する	対応していない	48 kHz または 44.1 kHz に変換して出力

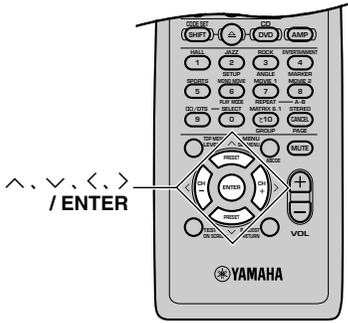
88.2kHz以上の信号に対応していない外部機器にデジタル信号を入力する場合のみ「する」に設定してください。「しない」に設定すると、88.2kHz以上の音声は出力されません。

#### ご注意

- 176.4kHz以上の信号や、著作権保護処理がされているディスクの高音質信号は、上記の設定に関係なく、48kHzまたは44.1kHzにダウンサンプリング変換して出力されます。

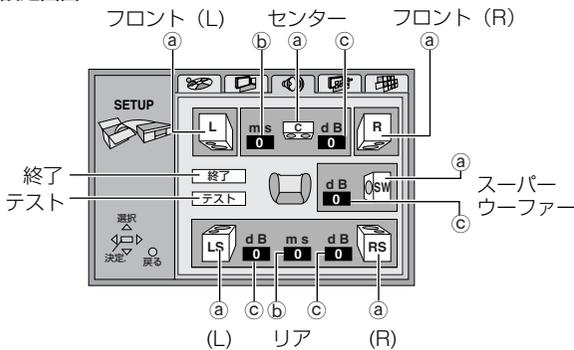
## スピーカー設定 DVD-A DVD-V

DVDモード時のDISC DIRECT機能がオンのときに使用するスピーカーの設定をおこなうことができます。



セットアップメニューで“マルチチャンネル”（スピーカーを3本以上接続）を選んだとき、接続したスピーカーに応じて、以下の①②③の設定が必要になります。[“2チャンネル”（スピーカーを2本接続するときやドルビープロロジックデコーダーに接続）を選んだときは、設定の必要がありません。]

### 設定画面



### ① スピーカーの有無とサイズ

**1** へ、↓、←、→ キーで項目を選び ENTER キーを押す。  
スピーカーアイコンの上下に◀▶が表示されます。

**2** へ または ↓ キーで内容を変更し、ENTER キーを押す。

スピーカーサイズ選択項目

L: 大、小

R: 大、小

C: 大、小、なし

SW: あり、なし

LS: 大、小、なし

RS: 大、小、なし

L、RとLS、RSは片方のスピーカーサイズ選択がもう片方にも適応されます。

大: スピーカーが100Hz以下を再生できるとき  
小: スピーカーが100Hz以下を再生できないとき  
(付属のスピーカーNX-S100S等)

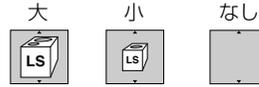
• 工場出荷時のスピーカーサイズ

L/R: 大

C/LS/RS: 大

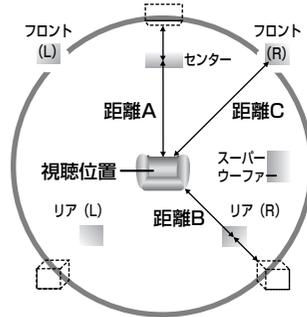
SW: あり

• LSの場合の表示例



### ② ディレイタイム (ドルビーデジタルで記録されたDVDビデオのセンター/リアチャンネルのみ)

5.1ch音声を楽しむには、すべてのスピーカー（スーパーウーファーは除く）を下記のように円上に置くのが理想的です。置けない場合は、ディレイタイムの設定をすると音声出力に遅延効果を与え仮想的に理想の視聴位置を実現します。



**1** へ、↓、←、→ キーでmsを選びENTERキーを押す。

**2** へ または ↓ キーでディレイタイムを調整し、ENTERキーを押す。

• 設定値

距離A、距離B ≥ 距離C: 0 ms

距離A、距離B < 距離C: 下記の設定を行う

#### センター

距離の差	設定値
約50 cm	1.3 ms
約100 cm	2.6 ms
約150 cm	3.9 ms
約200 cm	5.3 ms

#### リア

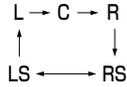
距離の差	設定値
約200 cm	5.3 ms
約400 cm	10.6 ms
約600 cm	15.9 ms

## ◎ 出力バランス

各スピーカーの音量レベルが異なるときフロントスピーカーと同じ音量で聞こえるように調節します。

### 1 へ、↓、←、→キーで“テスト”を選びENTERキーを押す。

「ザー」というテストトーンがフロントLスピーカーから、以下の順で出力されます。



### 2 調節したいスピーカーからテストトーンが出ている間にセンターやリアL、Rスピーカーの音量をへ、↓キーで調節する。(−6dB〜+6dB)

フロントスピーカーの音量調節はできません。

### 3 ENTERキーを押して、テストトーンを止める。

#### ご注意

- スーパーウーファーからはテストトーンは出ません。ディスクを再生し、音量を確認してから調節してください。

## ■ 設定を終了するには

へ、↓、←、→キーで“終了”を選びENTERキーを押す。

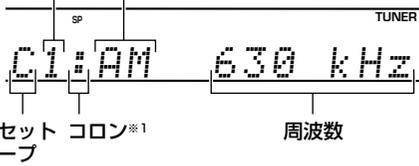
#### ご注意

- セットアップ画面でのスピーカー設定の調節はDISC DIRECT機能がオンのときのみ有効になります。それ以外のときは、「スピーカーの音量レベルを調節する(21ページ)」で調節してください。
- ディスクやプレーヤー側の制約により、DVDオーディオの再生時に設定した通りに音が出ないことがあります。その場合には本体ディスプレイに“P. PCM”が点灯したり、“D. MIX”が消灯したりすることがあります。

# FM/AM放送を聴く

ディスプレイ表示例：

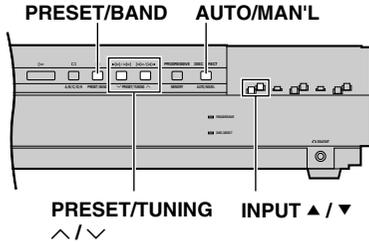
プリセット番号 バント



\*1 チューニング(選局)モード時に消灯し、プリセット(登録)モード時に点灯します。

## 選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。



### ■ 自動的に選局する (オート選局)

- 1 INPUT ▲ / ▼ キーを繰り返し押し、  
「TUNER」を選ぶ。

※ ヒント

- リモコンのTUNERキーを押しても選択できます。

- 2 PRESET/BANDキーを押して、FMまたはAM  
を選ぶ。

押すたびにFM(チューニングモード)→AM(チューニングモード)→(プリセットモード)→FM(チューニングモード)→...の順に切り替わります。

※ ヒント

- バンド表示の隣にコロン(:)が消灯していれば、チューニングモードですので、消灯していることを確認してください。

- 3 AUTO/MAN'Lキーを押して、ディスプレイに  
AUTO表示を点灯させる。

- 4 PRESET/TUNING ^ / ▼ キーを押して、受  
信したい放送局を選ぶ。

高い周波数の放送局を探すときは ▲ キー、低い周波数の放送局を探すときは ▼ キーを押します。

※ ヒント

- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください(マニュアル選局)。
- 放送局を受信すると、ディスプレイに「TUNED」が点灯し、周波数が表示されます。

### ■ 手動でお好みの放送局を選ぶ (マニュアル選局)

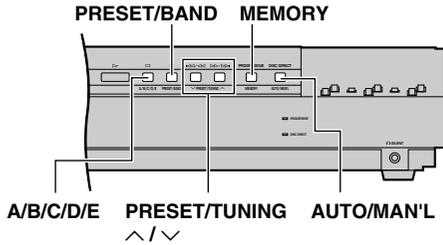
電波の弱い放送局は、手動で選ぶ必要があります。

- 1 左記載の「自動的に選局する(オート選局)」  
の手順2までの操作をおこなう。
- 2 AUTO/MAN'Lキーを押して、ディスプレイの  
AUTO表示を消灯する。
- 3 PRESET/TUNING ▲ / ▼ キーを押す。  
押し続けると、連続して周波数が変わります。

※ ヒント

- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

## 放送局を登録する (プリセット)



### ■ FM放送局を自動登録する (オートプリセット)

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループ)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておく、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

- 1** PRESET/BANDキーを押して、FMを選ぶ。
- 2** AUTO/MAN'Lキーを押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させる。
- 3** MEMORYキーを約3秒押し続ける。  
プリセット番号とMEMORY表示、AUTO表示が点滅します。数秒後に、周波数表示が高くなり始めます。(オートプリセット開始。)  
オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

#### ※ ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます。詳しくは「登録した放送局を入れ替える」(55ページ)をご覧ください。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

#### ご注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱い放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください。

### 登録を始めるプリセット番号を指定する

FM局の登録を始めるプリセットグループや番号を指定して、周波数の低い方から高い方へ、また逆に高い方から低い方へもオートプリセットを始めることができます。

- 1** 左記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順2までの操作をおこなう。
- 2** MEMORYキーを約3秒押し続けたあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING へ/∨キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選ぶ。  
放送局が「E8」まですべて登録されると、オートプリセットが停止します。
- 3** PRESET/BANDキーを押してコロン(:)を消してから、PRESET/TUNING へ/∨キーを押す。  
∨を押すと周波数表示が低くなり始め、へを押すと高くなり始めます。(オートプリセット開始。)

### ■ 手動で登録する (マニュアルプリセット)

放送局40局までを手動で登録することもできます。

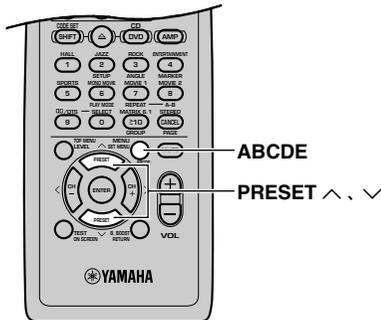
- 1** プリセットしたい放送局を選局する。  
詳しくは「選局する」(53ページ)をご覧ください。  
選局時には、受信している局の周波数と放送バンド(FMまたはAM)がディスプレイに表示されます。
- 2** MEMORYキーを押す。  
ディスプレイにMEMORY表示が約5秒間点滅し、登録できる状態になります。
- 3** MEMORY表示が点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A~E)を選ぶ。  
グループが表示されます。バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。
- 4** MEMORY表示の点滅中にPRESET/TUNING へ/∨キーを押して、プリセット番号(1~8)を選ぶ。  
へを押すと数が増え、∨を押すと減ります。
- 5** MEMORY表示が点滅中に、MEMORYキーを押す。  
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)、周波数がディスプレイに表示されます。
- 6** 他の放送局を続けて登録するときは、手順1~5を繰り返す。

#### ご注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

## 登録した放送局を選んで聴く (プリセット選局)

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。



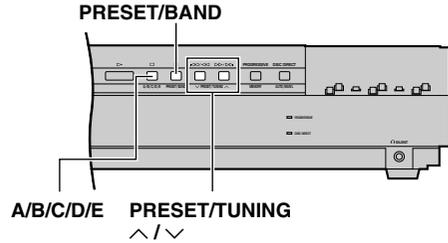
- 1 ABCDEFキーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**  
ディスプレイに表示されるプリセットグループはABCDEFキーを押すたびに切り替わります。
- 2 PRESET へ/∨ キーを押して、プリセット番号を選ぶ。**  
プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド(FMまたはAM)と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNED表示が点灯します。

### ☀ ヒント

- 本体のA/B/C/D/EとPRESET/TUNING へ/∨ キーを繰り返し押してもプリセット選局できます。

## 登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。



- 1 「E1」に登録した放送局を選局する。**  
詳しくは、左記載の「登録した局を選んで聴く(プリセット選局)」をご覧ください。
- 2 PRESET/BANDキーを約3秒間押す。**  
「E1」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。
- 3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EとPRESET/TUNING へ/∨ キーを使って選局する。**  
「A5」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。
- 4 PRESET/BANDキーを押す。**  
ディスプレイに「EDIT E1-A5」と表示され、プリセット局が入れ替わります。

# テレビ、ビデオ、MD/CDレコーダーをリモコンで操作する

メーカーコード(各メーカーごとに割り当てられた信号)を本機のリモコンに登録することで、本機に接続したテレビ、ビデオ、MD/CDレコーダーを本機のリモコンで操作できます。

## ご注意

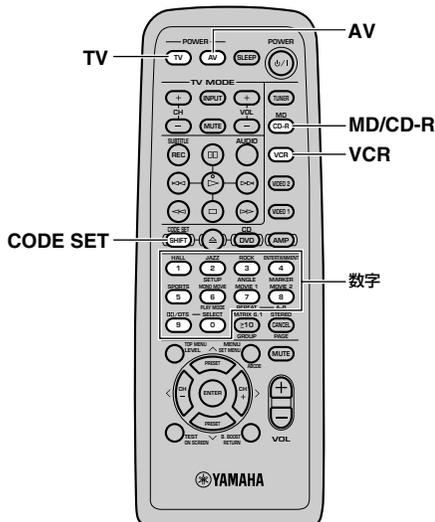
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。その場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

## メーカーコードを設定する

TV、VCR、MD/CD-Rのキーにメーカーコードを設定する事により、57ページの「操作キー一覧」の操作が可能になります。

## ご注意

- TVキーにはテレビのメーカーコードのみ設定できます。また、VCR、MD/CD-Rキーにはビデオデッキ、CD-R、MDのいずれかのメーカーコードが設定できます。



### 3 TVまたはAVキーを押して、コードを設定した機器の電源を入/切(待機状態)し、正しく設定されたことを確認する。

メーカーコードが正しく設定されると、リモコンのTV、ビデオデッキ、MD/CDレコーダーの操作可能なキーでメーカーコードを設定した機器を操作できます。

### リモコンのTV、VCR、MD/CD-Rキーを押しても、メーカーコードを設定した機器を操作できないときには

次の点に注意して手順1から操作をやり直してください。

- メーカーコードを設定するとき、リモコンの入力選択キーを正しく選んでいるか、確かめてください。
- 複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてください。
- リモコンの電池を入れ直してから、(2分以内におこなってください)操作をやり直してください。(このとき、リモコンのキーを押さないように注意してください。他のリモコンの入力選択キーにメーカーコードが設定してある場合は、設定が消えてしまうことがあります。)

### 工場出荷時の設定に戻すには

「メーカーコードを設定する」の手順2でCODE SETキーを押しながら「各機器別コード」+「99」を入力します。(手順3は必要ありません。)

### 1 CODE SETキーを押しながら、メーカーコードを設定するTV、VCR、MD/CD-Rのいずれかのキーを押す。

TV、VCR、MD/CD-Rの各キーに1つのメーカーコードが設定できます。

## ご注意

- 手順1～2の間はCODE SETキーを押したまま操作してください。

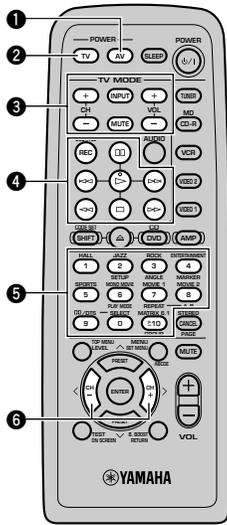
### 2 CODE SETキーを押したまま、機器の機器別コード(1桁)+メーカーコード(2桁)を数字キーを押して入力する。

- 機器別コードおよびメーカーコードについては75ページの「メーカーコード一覧」をご覧ください。
- 入力が終わったらCODE SETキーから指を離します。

## ※ ヒント

- TV、VCR、MD/CD-Rの各キーには、工場出荷時にメーカーコード99が設定されています。

## ■ 操作キー一覧



メーカーコードを設定したTV、VCR、MD/CD-Rのいずれかのキーを押すと、キー機能が下表のように各機器用に切り替わります。

操作キー	機器名	VCR (またはMD/CD-R) キー	TVキー	MD/CD-R (またはVCR) キー
		ビデオデッキ	テレビ	MD/CDレコーダー
① AV		*1POWER	*3ビデオデッキ POWER	*1POWER
② TV		*2テレビ POWER	*2POWER	*2テレビ POWER
③ TV CH +		*2テレビのチャンネル選択(+)	チャンネル選択(+)	*2テレビのチャンネル選択(+)
TV CH -		*2テレビのチャンネル選択(-)	チャンネル選択(-)	*2テレビのチャンネル選択(-)
TV VOL +		*2テレビの音量(+)	音量(+)	*2テレビの音量(+)
TV VOL -		*2テレビの音量(-)	音量(-)	*2テレビの音量(-)
TV MUTE		*2テレビの消音	消音	*2テレビの消音
TV INPUT		*2テレビの入力切り替え	入力切り替え	*2テレビの入力切り替え
④ *5REC		録画	*3ビデオデッキの録画	*4録音
▷		再生	*3ビデオデッキの再生	再生
◀◀		巻き戻し	*3ビデオデッキの巻き戻し	巻き戻し
▶▶		早送り	*3ビデオデッキの早送り	早送り
⏸		一時停止	*3ビデオデッキの一時停止	一時停止
⏮		-	-	スキップ(-)
⏭		-	-	スキップ(+)
□		停止	*3ビデオデッキの停止	停止
⑤ 1-9, 0, ≥10		-	-	数字キー
⑥ CH +		ビデオのチャンネル選択(+)	-	-
CH -		ビデオのチャンネル選択(-)	-	-

\*1 各機器のリモコンにPOWERキーがあるときだけ、機能します。

\*2 テレビのメーカーコードがTVキーに設定されていれば、お手持ちのテレビを操作することができます。

\*3 ビデオデッキのメーカーコードがVCRまたはMD/CD-Rキーに設定されていれば、お手持ちのビデオデッキを操作することができます。

\*4 CDレコーダーでは操作できません。

\*5 素早く2回押ししてください。(1秒以内)

# セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

## ※ ヒント

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

## ご注意

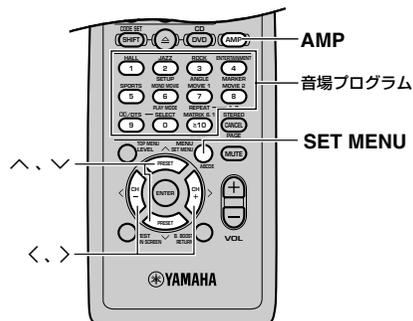
- セットメニューの1E、5、9で設定した内容はDVDモード時のDISC DIRECT機能がオンのときも有効です。

## セットメニュー一覧

本機には、下記の項目のセットメニューが用意されています。

項目	初期設定(値)
<b>1 SPEAKER SET</b>	
A CENTER	SML (small)
B FRONT	SMALL
C REAR LR	SML (small)
D BASS	SWFR
E F. Level	Nrm (Normal)
<b>2 LFE LEVEL</b>	
SP LFE	0 dB
HP LFE	0 dB
<b>3 SP DLY TIME</b>	0 ms
<b>4 D. RANGE</b>	
SP D.R	MAX
HP D.R	MAX
<b>5 L/R BALANCE</b>	0 dB for L/R
<b>6 HP TONE CTRL</b>	
HP BASS	0 dB
HP TRBL	0 dB
<b>7 I/O ASSIGN</b>	
[A] オプティカル入力	VIDEO 1
[B] コアキシャル入力	MD/CD-R
<b>8 INPUT MODE</b>	AUTO
<b>9 SP/PRE OUT</b>	SP
<b>10 DUAL MONO</b>	MAIN

## セットメニューの操作手順



## ご注意

- 項目によっては、さらに別な操作が必要となる場合があります。

- 1 AMPキーを押す。**
- 2 SET MENUキーを押す。**
- 3 へ キーまたは ∨ キーを繰り返し押し、設定したいメニュー (1~10) を選ぶ。**

## ご注意

- ディスプレイにSET MENUの1が表示されているときに へ を押すと、SET MENUモードが終了してしまいます。(SET MENUの10が表示しているときに ∨ を押す場合も同様です。)

- 4 < キーまたは > キーを押す。**  
選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定が本体ディスプレイに表示されます。  
項目によっては へ キーまたは ∨ キーを押して、サブメニューを選びます。
- 5 < キーまたは > キーを繰り返し押し、設定を変える。**
- 6 セットメニューを終了するときは、音場プログラム表示になるまで へ キーまたは ∨ キーを繰り返し押すか、音場プログラムキーのどれかを押す。**

## スピーカーモードを設定する (1 SPEAKER SET)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。5.1チャンネルで使用しないときや、付属のスピーカー以外のスピーカーを使用するときには、必ず設定してください。

### ※ ヒント

- 付属のスピーカー以外のスピーカーを使用するときには下記を目安に設定してください。  
 –ウーファーの口径が約16cm以下の場合:「SML(SMALL)」  
 –ウーファーの口径が約16cm以上の場合:「LRG(LARGE)」

### ご注意

- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、項目によっては、再生する音声に設定が反映されない場合があります。

## ■ 1A CENTER

センタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選びます。

**選択項目:** LRG (large)、SML (small)、NON (none)  
**初期設定:** SML

**LRG:** 大型のセンタースピーカーを使用するときを選びます。(センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。)

**SML:** 小型のセンタースピーカーを使用するときを選びます。(センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。)

**NON:** センタースピーカーを使用しないときを選びます。(センターチャンネル信号は、フロントL、Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。)

## ■ 1B FRONT

フロントスピーカーの性能に応じて、出力モードを選びます。

**選択項目:** LARGE、SMALL  
**初期設定:** SMALL

**LARGE:** 大型のフロントスピーカーを使用するときを選びます。(フロントL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままフロントL、Rスピーカーに出力されます。)

**SMALL:** 小型のフロントスピーカーを使用するときを選びます。(フロントL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。)

### ご注意

- SMALL設定時でも、「1D BASS」の設定がFRONTの場合には、フロントL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はフロントスピーカーに出力されます。

## ■ 1C REAR LR

リアL、Rスピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選びます。

**選択項目:** LRG (large)、SML (small)、NON (none)  
**初期設定:** SML

**LRG:** 大型のリアL、Rスピーカーを使用していたり、リアL、Rスピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合に選びます。(リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。)

**SML:** 小型のリアL、Rスピーカーを使用するときを選びます。(リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1D BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。)

**NON:** リアL、Rスピーカーを使用しないときを選びます。(リアL、Rチャンネル信号はフロントL、Rスピーカーにそれぞれ振り分けられます。)

### ※ ヒント

- NONに設定されている場合は、音場効果を「入」にするるとパーチャルシネマDSPモードになります。

## ■ 1D BASS

LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選びます。(LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AAC作動時に出力される90Hz以下の低域効果音のことです。)

**選択項目:** SWFR (subwoofer)、FRONT、BOTH  
**初期設定:** SWFR

**SWFR:** スーパーウーファーを使用するときを選びます。(LFE信号と、1A~1Cの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、スーパーウーファーに出力されます。)

**FRONT:** スーパーウーファーを使用しないときを選びます。(LFE信号と、1A~1Cの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、フロントL、Rスピーカーに出力されます。)

**BOTH:** スーパーウーファーを使用し、さらにフロントスピーカーモードの設定に関わりなく、90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスするときを選びます。(フロントL、Rチャンネルの低音域が、フロントL、Rスピーカーとスーパーウーファーの両方に出力されます(2チャンネル再生やドルビーサラウンド再生時に、スーパーウーファーから音が出ます。))

### ご注意

- 1A~1Cを「SML (SMALL)」に設定している場合は、他チャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEチャンネルにミックスされて、「1D BASS」で選んだスピーカーから出力されます。

## ■ 1E F. Level

フロントスピーカーレベルを選びます。フロントスピーカーの音量レベルが極端に大きく、他のスピーカーの音量レベルがフロントスピーカーに合わない場合には、フロントスピーカーの音量レベルを下げて音声のバランスを取ることができます。

**選択項目:** Nrm (Normal) -10 dB  
**初期設定:** Nrm

**Nrm:** 通常はこの設定にします。  
-10 dB: センタースピーカーやリアスピーカーの出力レベルがフロントスピーカーに合わない場合は、この設定にします。フロントスピーカーの音量レベルが-10 dB(約1/3)になります。

### ご注意

- 設定した内容は、ヘッドホン接続時には反映されません。

## LFE信号の再生レベルを調節する (2 LFE LEVEL)

ドルビーデジタルやDTS、AAC信号を再生中に、LFEチャンネルの出力レベルを調節します。使用するスーパーウーファーとヘッドホンの性能に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

**可変範囲(dB):** (SP LFE、HP LFE) -20~0dB  
**初期設定:** 0dB

- 1 ✓キーやへキーを押して、SP LFE(スピーカー)またはHP LFE(ヘッドホン)を選ぶ。
- 2 <キーを押して、LFEレベルを調節する。

## センタースピーカーのディレイタイムを設定する (3 SP DLY TIME)

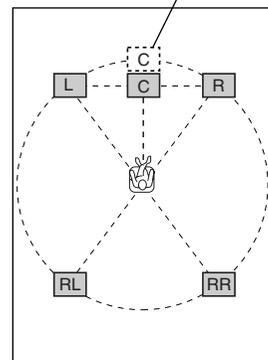
センタースピーカーの音響遅延時間(ディレイタイム)を設定できます。ドルビーデジタルやDTS、AAC再生時など、センタースピーカーから音を出すときに有効です。

通常、センタースピーカーはフロントL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、同時に出了音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離を同一にするのが理想的です。ディレイタイムを設定することで、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

**可変範囲(ms):** (センター) 0~5ms  
**初期設定:** (センター) 0ms

>キーを押すとスピーカーの仮想的な位置が遠くなり、<キーを押すと近くなります。

仮想センタースピーカー位置



### ※ ヒント

- 目安として、ディレイタイムを1ms増すと視聴位置から約30cm遠ざかったこととなります。

## ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定する (4 D. RANGE)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を3段階から選べます。

選択項目: MAX (最大)、STD (標準)、MIN (最小)  
初期設定: MAX

**MAX:** ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

**STD(STANDARD):** ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

**MIN:** 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

### ご注意

- ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がることがあります。その際は、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してください。

## フロントスピーカーの音量バランスを調整する (5 L/R BALANCE)

フロントL、Rスピーカーの音量バランスを設定できます。設定した音量バランスは、ヘッドホン使用時にも反映されます。

可変範囲: 左右ともに20段階  
初期設定: 中央

＞キーを押すとフロントLスピーカーの音が小さくなり、くキーを押すとフロントRスピーカーの音が小さくなります。一方のチャンネルの音声だけを完全に消すことはできません。

## ヘッドホンの音質を調整する (6 HP TONE CTRL)

ヘッドホンの低音域(BASS)および高音域(TRBL)を調節できます。

可変範囲(dB): (BASS、TRBL) -6~+3  
初期設定: (BASS、TRBL) 0dB

＞キーを押すと低音域または高音域が大きくなります。また、くキーを押すと小さくなります。

## 入出力端子の割り当てを変更する (7 I/O ASSIGN)

使用する機器と本機のデジタル入力端子名が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てられます。変更後は、割り当てた機器を入力選択キーで選択できます。

### ■ [A] オプティカル入力端子

選択項目: VIDEO 1、VIDEO 2、VCR、MD/CD-R  
初期設定: VIDEO 1

### ■ [B] コアキシャル入力端子

選択項目: VIDEO 1、VIDEO 2、VCR、MD/CD-R  
初期設定: MD/CD-R

### ご注意

- 同じ入力系統のコアキシャル端子とオプティカル入力端子から同時にデジタル信号が入力されると、コアキシャル端子からの入力信号が優先されます。
- 各項目の[ ]内のアルファベットは本機リアパネルの端子の位置を示しています。

## 電源を入れたときの入力モードを設定する (8 INPUT MODE)

デジタルとアナログの両方の形式の再生機器を接続している場合などに、電源を入れたときの入力モードを選べます。

選択項目: AUTO、LAST  
初期設定: AUTO

**AUTO:** 最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モード設定が自動的に「AUTO」に設定されます。

**LAST:** 最後に操作したときの入力モードが、そのまま反映されます。

## ソースの出力先を変更する (9 SP/PRE OUT)

選択項目: SP、PRE  
初期設定: SP

**SP:** スーパーウーファー(SW-S100)に接続したスピーカーから音が出ます。(6CH PRE出力端子からは出力されません。)

**PRE:** 6CH PRE出力端子から出力します。6CH PRE出力端子に外部のパワーアンプを接続したときには、PREを選んでください。(スーパーウーファー(SW-S100)に接続したスピーカーからは音は出ません。)

## 二重音声出力時の出力モードを 変更する (10 DUAL MONO)

BSデジタル放送などで使われる、二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定できます。

選択項目: MAIN、SUB、ALL

初期設定: MAIN

**MAIN:** 主音声のみをフロントL、Rスピーカーから出力します。

**SUB:** 副音声のみをフロントL、Rスピーカーから出力します。

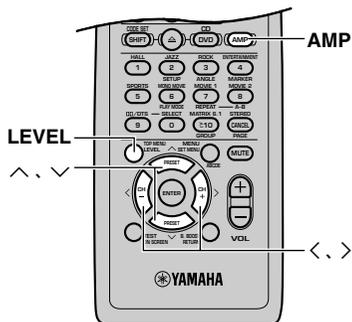
**ALL:** 主音声と副音声をフロントL、Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のフロントL、Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

### ご注意

- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- この設定はAAC、ドルビーデジタル信号の二重音声(デュアルモノ)信号およびAACの多重音声(マルチモノ)信号の受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルを選ぶことはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選んでください。

# 再生中にフロントスピーカー以外の音量レベルを調節する

再生音を聴きながら、スーパーウーファー、センター、リアL、Rスピーカーの音量レベルを調節できます。



(ソース再生中)

**1** AMPキーを押す。

**2** LEVELキーを繰り返し押し、調節したいスピーカーを選ぶ。

LEVELキーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。

CENTER(センター)→R SUR.(リアR)→L SUR.(リアL)→SWFR(スーパーウーファー)→CENTER(センター)→...

### ※ ヒント

- LEVELキーでレベル表示にすると、∨ キーまたは ∧ キーでもスピーカーを選べます。

**3** < キーまたは > キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

スーパーウーファー、センター、リアL、Rスピーカーの調節範囲は、+10~-10dBです。

### ご注意

- セットメニューの「1A CENTER」および「1C REAR LR」がNONに、「1D BASS」がFRONTに設定されている場合は、そのスピーカーの音量レベルは調整できません。
- LEVELキーでスピーカーの音量レベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量レベルも変更されません。
- あらかじめ、21ページの「テストトーンで調節する」に記載されている手順にそってスピーカーを調節することをお勧めします。
- DVDモード時のDISC DIRECT機能がオンのとき以外のモードで有効です。

## ■ 5ch Stereo選択時のスピーカーの音量レベル調節

音場プログラム「5ch Stereo」モード専用の音量レベル調節をおこなうことができます。

### センターレベル CT LEVEL

機能: 5ch Stereoモード時にセンターチャンネルの音量レベルを調節します。

### リア左レベル RL LEVEL

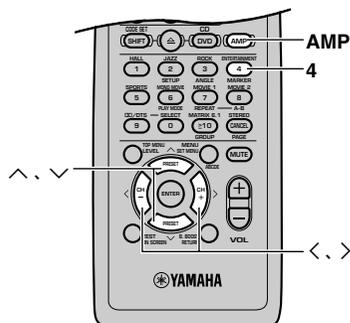
機能: 5ch Stereoモード時にリアLチャンネルの音量レベルを調節します。

### リア右レベル RR LEVEL

機能: 5ch Stereoモード時にリアRチャンネルの音量レベルを調節します。

可変範囲: 0~100%(各スピーカー)

初期設定: 100%(各スピーカー)



(ソース再生中)

**1** AMPキーを押す。

**2** 数字キー 4 を押し、「5ch Stereo」を選ぶ。

**3** ∧ キーまたは ∨ キーを繰り返し押し、調節したいスピーカーを選ぶ。  
CT LEVEL ↔ RL LEVEL ↔ RR LEVEL ↔ CT LEVEL... の順で切り替わります。

**4** < キーまたは > キーを押して、スピーカーの音量レベルを調節する。

50%にすると、各チャンネルの音量が半分になり、0%にすると音は出なくなります。

### ご注意

- 5ch Stereoモード時にテストトーンやLEVELキーで調節した音量レベルは、ここで調節した音量レベルに置き換わりません。
- セットメニューの「1A CENTER」および「1C REAR LR」がNONに設定されている場合は、そのスピーカーの音量レベルは調整できません。

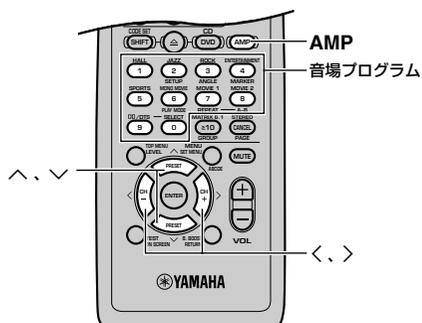
設定を変更する

# 音場プログラムの設定を変更する

## ディレイタイムを調節する

フロントスピーカーの音とリアスピーカーのサラウンド音が再生されるときに時間差をディレイタイムといいます。数値を大きくするほどサラウンド音が遅れて再生され、音場空間が大きく感じられます。

ディレイタイムは各音場プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聞きながらソースやリスニングルームの状況に応じて各音場プログラムごとに調節することができます。



(ソース再生中)

- 1** AMPキーを押す。
- 2** 音場プログラムキーを押して、ディレイタイムを調節したい音場プログラムを選ぶ。
- 3** へ キーまたは ∨ キーを押す。  
本体ディスプレイにDELAYが表示されます。
- 4** 左 または 右 キーを押してディレイタイムを調節する。

### ご注意

- ソースによっては、ディレイタイムを増減しすぎると、効果音が不自然になることがあります。
- ディレイタイム調節中は、再生中の音が一時的に途切れることがあります。

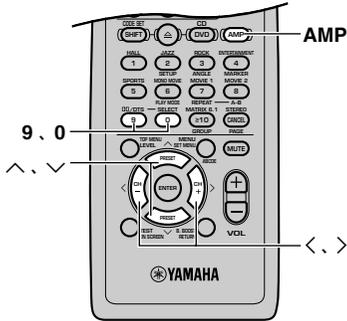
下記の表は工場出荷時に設定されたディレイタイムです。

	プログラム名	初期設定 (ms)
1	CONCERT HALL	45
2	JAZZ CLUB	30
3	ROCK CONCERT	15
4	DISCO	26
	GAME	36
	CONCERT VIDEO	21
5	TV SPORTS	10
6	MONO MOVIE	69
7	70 mm SPECTACLE	23
	DGTL SPECTACLE	15
	DTS SPECTACLE	15
	AAC SPECTACLE	15
	Spectacle 6.1	15
	70 mm SCI-FI	20
	Sci-Fi 6.1	15
	DGTL SCI-FI	15
	DTS SCI-FI	15
	AAC SCI-FI	15
8	70 mm ADVENTURE	20
	DGTL ADVENTURE	15
	DTS ADVENTURE	15
	AAC ADVENTURE	15
	Adventure 6.1	15
	70 mm GENERAL	20
	DGTL GENERAL	15
	DTS GENERAL	15
	General 6.1	15
	AAC GENERAL	15
9	PRO LOGIC/NORMAL	15
	DOLBY DIGITAL/NORMAL	5
	DTS DIGITAL SUR./NORMAL	5
	AAC DIGITAL SUR./NORMAL	5
	Matrix 6.1	5
	PRO LOGIC/ENHANCED	20
	DOLBY DIGITAL/ENHANCED	5
	DTS DIGITAL SUR./ENHANCED	5
	AAC DIGITAL SUR./ENHANCED	5
	Enhanced 6.1	5
PRO LOGIC II Movie	15	
PRO LOGIC II Music	5	

## ドルビープロロジック II Musicの設定を変更する

### ■ 設定値(パラメーター)を変更する

ドルビープロロジック II Musicの設定値を調整して、リスニングルームの音場をアレンジできます。



- 1** AMPキーを押す。
- 2** PRO LOGIC II Musicを選択できるまで、数字キー 9 と 0 を押す。
- 3** ∧ キーまたは ∨ キーを押して、変更したい項目を選ぶ。
- 4** < キーまたは > キーを押して、設定値を変更する。
- 5** 他の設定値を変更したいときは、手順3と4を繰り返す。

### ■ プロロジック II Music設定値 (パラメーター) 一覧

パノラマ

#### PANORAMA

フロントL、Rチャンネルの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

**機能:** ドルビープロロジックIIのフロント音場の広がりを調節します。

**選択項目:** OFF/ON

**初期設定:** OFF

ディメンション

#### DIMENSION

再生するソフトによって生じる、フロントとリアチャンネルの音量の差を調節して、お好みのバランスにすることができます。

**機能:** ドルビープロロジックIIのサラウンド音場の、フロント側とリア側の音量の差を調節します。

**可変範囲:** -3 (リア方向へ強く)

~+3 (フロント方向へ強く)

**初期設定:** STD (Standard)

ワイドス センター ワイドス

#### CT WIDTH (Center width)

センターチャンネルからの音声を、お好みにあわせて左右に振り分けることができます。

**機能:** ドルビープロロジックIIのセンターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。

**可変範囲:** 0 (センターチャンネル音声センタースピーカーからのみ出力されます。)

~7 (センターチャンネル音声フロントL、Rスピーカーからのみ出力されます。)

**初期設定:** 3

# 故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

## ■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	—
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路が作動し電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	18～19
	本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	本機をスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約30秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。	—
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	15～20
	再生するソースの選択が適切でない。	入力選択キーで正しく選択してください。	22
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーの接続を確認してください。	18～19
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	22
	消音されている。	リモコンのMUTE(消音)キーまたはVOL+/ーキーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	22
	本機で再生できないCD-ROMなどを再生している。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
画像が表示されない。	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入出力側とも、ビデオやSビデオなど同じ種類の端子で接続してください。	15
音声が突然出なくなる。	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	23
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	18～19
フロントスピーカー以外のスピーカーから音が出ない。	STEREOになっている。	STEREOキーを押して、音場効果を「入」にしてください。	28
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS、AAC信号でエフェクト信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	24～25
	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が本機に入力されている。	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号入力時は、フロントスピーカーからのみ音が出ます。	28

症状	原因	解決方法	参照ページ
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	センタースピーカーの音量レベルを上げてください。	63
	セットメニューの「1A CENTER」がNONIになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください。	59
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1~4(5ch Stereoを除く)を選択している。	別の音場プログラムを選択してください。	24~25
	ドルビーデジタルまたはDTS、AACソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		-
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	リアスピーカーの音量レベルを上げてください。	63
	音場プログラムのNo.9でモノラルソースを再生している。	他の音場プログラムを選択してください。	24~25
スーパーウーファーから音が出ない。	セットメニューの「1D BASS」をFRONTにしたまま、ドルビーデジタルやAAC、DTSソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	59
	セットメニューの「1D BASS」をSWFRまたはFRONTにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください。	59
	ソースにLFEなどの低音信号(90Hz以下)が含まれていない。		-
低音の再生不良。	セットメニューのスピーカーモード設定がお使いのスピーカー構成と一致していない。	お使いのスピーカーの大きさをもとに、適切なスピーカーモードに設定してください。	59~60
ハム音が出る。	ピンケーブルの接続が不完全。	ピンケーブルの接続を確認してください。	15~16
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機の出力(Rec)端子に接続している機器の電源が入っていない。	出力(Rec)端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。接続機器の電源を入れてください。	-
音場効果を加えた音を録音できない。	音場効果を加えた音は録音できません。		-
録音できない。	デジタル録音時にアナログソースを入力している。	デジタルソースを入力してください。	-
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続してください。	15~16
	アナログ録音時にデジタルソースを入力している。	アナログソースを入力してください。	-
	本機と再生機器および録音機器が、アナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	15~16
	録音機器によっては、ドルビーデジタルやDTS、AACなどのデジタルソースを録音できません。		-

症状	原因	解決方法	参照ページ
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—
セットメニューなどの設定内容が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままになっていると、内蔵メモリーの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定し直してください。	—

## ■ ディスク再生

症状	原因	解決方法	参照ページ
各キー操作ができない。	ディスクによっては、特定の操作を禁止している場合がある。		—
[▶](再生)を押しても、再生が始まらない。(または、すぐに停止する。)	寒いところから急に暖かいところに持ってきて、レンズ部に露が付いた。	1~2時間放置してください。	—
	再生できないディスクが入っている。		—
	ディスクが汚れている。	きれいに拭いてください。	30~31
	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットしてください。	—
音声/字幕言語が切り替えられない。	複数の言語が入っていないディスクでは切り替えできない。		—
	音声/字幕切り替え操作では切り替えできないディスクでも、メニュー画面等で切り替えできる場合がある。		—
字幕が出ない。	字幕の入っていないDVDでは字幕が表示されない。		—
	字幕が“切”になっている。	字幕を“入”にしてください。	36
	A-Bリピート再生のA点、B点や、マーカーでマークを付けた箇所の前後では、字幕が表示されないことがある。		—
アングルを変えて見る事ができない。	複数のアングルが記録されている場面でのみ切り替えることができる。		—
ビデオで録画できない。	ほとんどのDVDオーディオ/ビデオディスクはコピー禁止処理がされていて、録画できない。		—
音が出ない。(または音がおかしい。)	マルチチャンネルのDVDオーディオディスク再生時に、本体ディスプレイの“D.MIX”表示が消灯するときは、ディスク側が指定したスピーカー接続でないと正常に再生できない。		—

症状	原因	解決方法	参照ページ
早送り/早戻しをしたら画像が乱れる。	多少乱れることがあるが、故障ではない。		—
テレビ(モニター)に映像が映らない。(または画面サイズがおかしい。)	セットアップメニューの「映像」の「TVアスペクト」が正しく設定されていない。	設定を確認してください。	48
	テレビ(モニター)画面に「PAL方式のディスクです。音声のみ出力します。」が表示している場合は、PAL方式のDVDオーディオディスクが入っている。(音声のみ再生できます。)		—
	テレビ(モニター)がプログレッシブ入力に対応していない。	本機のプログレッシブ出力を「切」にして、テレビ(モニター)にインターレース入力してください。	39
プログレッシブ出力時に映像の一部が二重にぶれて見える。	映像ソフトそのものの編集方法や素材の状態に起因する症状です。(インターレース出力(525i)では問題なく再生できます。)	本機のプログレッシブ出力を「切」にして、テレビ(モニター)にインターレース入力してください。	39
画質がよくない。		GUI画面の映像設定で画質を調節してください。	38
画面メッセージが出ない。		セットアップメニューの「画面メッセージ」を「入」にしてください。	48
GUI画面が欠ける。(または表示されない。)		GUI画面表示中、くまたは > キーで右端の上下矢印アイコンを選び、へ または ∨ キーで位置を変えてください。	35
テレビ(モニター)画面に残像が多く残る。		GUI画面の「ユーザー画質」で画質を調節してください。	38
本体ディスプレイに「No Play」と表示する。	再生できないディスクが入っている。		—
本体ディスプレイに「No Disc」と表示する。	ディスクが入っていないか、ディスクが正しく入っていない。	ディスクを正しく入れてください。	—

## ■ FM/AM放送の受信

症状		原因	解決方法	参照ページ
FM/AM	プリセット選曲ができない。	プリセット(メモリー)が消えている。	もう一度プリセットしてください。	54
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。 FM屋外アンテナを多素子のものに変えてください。	17
			マニュアル選局をしてください。	53
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	17
	オート選局ができない。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。	マニュアル選局をしてください。	53
屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。			17	
AM	オート選局ができない。	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。 マニュアル選局をしてください。	17 53
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る。	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	17
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る(特に夕方に)。	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	-

## ■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	7
	本機のリモコン受光窓に直射日光や照明(インバーター蛍光灯など)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	-
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。	3
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください。	56
本機がリモコンで操作できない。	本機が操作できるモードに切り替わっていない。	リモコンのDVDモードキーまたはAMPキーを押してから操作してください。	-
外部機器がリモコンで操作できない。	システムコンポーネントは操作できません。	お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。	-
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおしてください。	56
		同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	56、75
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。	お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。	-

## ご注意

- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されています。信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生すると、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器を接続すると、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

## I/P/B

DVDでは、データを効率よくディスクに収めるため、画面間で共通するデータは共用し、異なるデータは各画面ごとに記録しています。

**I-picture:** 共用データの基準として単独で記録されるフレーム

**P-picture:** 過去のI-picture、またはP-pictureを元につくられるフレーム

**B-picture:** I/P両方を元につくられ、両者の間をうめるフレーム

上記の中では、I-pictureの画質がもっと良いため、画質調節をするときには、IPBを「入」にしたあと、 $\square$  キーを繰り返し押し続けてスチル(I)を選んでからおこなうことをおすすめします。

## インターレース出力/プログレッシブ出力

従来の映像信号(NTSC)は525i(i:インターレース=飛び越し走査)といわれるのに対し、その525i信号の倍の走査線数を持つ高密度な映像信号を525p(p:プログレッシブ=順次走査)といいます。

## S1

4:3に圧縮されたワイドソフトを自動的に16:9のサイズに戻して映します。

## S1/S2

S1の機能に加え、レターボックスのソフトを自動的にワイド画面いっぱい映し出します。

## ダイナミックレンジ

機器が出す雑音にうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

## チャンネル (ch)

出力される音域や特性によって区別された音声の種類です。例)5.1チャンネル

- フロントスピーカ[L(1ch)/R(1ch)]
- センタースピーカ(1ch)
- リアスピーカ[L(1ch)/R(1ch)]
- スーパーウーファー[1ch×0.1※=0.1ch]

※フル帯域の1チャンネルに対し、効果的な場面で低音を強調するために録音されるので、0.1とカウントされません。

## デコーダー

DVDなどに符号化して記録したデータを、音声または映像信号に戻す装置。この処理をデコードといいます。

デジタル          シアター          システム

## DTS (Digital Theater Systems)

多くの映画館で採用されている最大5.1チャンネルのサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションも良く情報量も多いので、リアルな音響効果が得られます。

## パン&スキャン/レターボックス

一般的にDVDビデオは、ワイドテレビ画面(画面の横縦比は16:9)での再生を想定して作られています。したがって、ワイドテレビでは、記録されたイメージ通りの映像を見ることができません。

このようなDVDビデオの映像を4:3のテレビ画面に映し出そうとすると、16:9の映像が4:3の画面に収まらなくなります。この問題を解決するための映像方式がパン&スキャン、あるいはレターボックスと呼ばれるものです。

- パン&スキャン  
映像の左右をカットして、画面全体に映し出します。
- レターボックス  
画面の上下に黒い帯を入れて、4:3の画面で16:9の映像を再現します。

## コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:Pe/CbおよびPr/Cr信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。

## Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならビデオ用ピンケーブルで伝送される映像信号を、専用のSビデオケーブルを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

## ビットストリーム (bitstream)

圧縮され、デジタルに置き換えられた信号です。デコーダーによって5.1チャンネルなどのマルチチャンネル音声にデコード(復号)されます。

## リアPCM (LPCM)

圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit~192kHz/24bitで記録されているので、CDよりも高音質で再生できます。また、この信号を、情報量を損なうことなく圧縮したものをパケットPCM(P.PCM)といいます。

## タイトル、チャプター (DVDビデオ)

DVDビデオは、いくつかの大きな区切り(タイトル)と小さな区切り(チャプター)に分けられており、それぞれの区切りの番号を、タイトル番号、チャプター番号と呼びます。

## トラック (DVDオーディオ/CD/ビデオCD)

DVDオーディオやCD、ビデオCDは、いくつかの区切り(トラック)に分けられており、これらの区切りの番号をトラック番号と呼びます。

## グループ (DVDオーディオ)

DVDオーディオディスクの曲構成はグループ単位で分かれています。それぞれの区切りの番号をグループ番号と呼びます。

## フィルム素材/ビデオ素材

DVDソフトの映像情報は、一般的に以下の2種類があります。

- **フィルム素材**  
映像情報が24コマ/秒で記録されているもの。(映画撮影で使われるフィルムには、24コマ/秒で画像が記録されています。)最近では30コマ/秒で記録されたプログレッシブ映像も登場しつつあります。

- **ビデオ素材**  
映像情報が30コマ/秒で記録されているもの。

本機は、DVDソフトに記録された映像情報がフィルム素材かビデオ素材かを判別し、それぞれに最適な方法でプログレッシブ出力に変換します。

## フレーム/フィールド

フレームとは、テレビの1枚の画面のことです。1フレームはフィールドと呼ばれる2枚の画面からなっています。

- フレームスチルのときは、2枚のフィールドの間でブレを生じることがありますが、画質は良くなります。
- フィールドスチルのときは、情報量が少ないため画像は少し粗くなりますが、ブレは生じません。

## サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

## シネマDSP

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせることで音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

## マトリクス6.1

本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルやDTS、AACマルチチャンネルソフト対応のマトリクス6.1デコーダーを内蔵しています。(リアセンターチャンネルはリアL、Rチャンネルから作られます。)この追加チャンネルにより、特にアクション映画などの動きの激しいシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

## ドルビーデジタル

ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ(2チャンネル)はもちろん、最大5.1チャンネルの独立したサラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

## ドルビープロロジック

4チャンネル信号を2チャンネルに記録し、演算処理により、再び4チャンネルの独立した信号を再生するサラウンドシステムです。

## ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

## バーチャルシネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

仮想的にリアスピーカーの音場を再現することで、センター、リアL、Rスピーカーなしでも、フロントL、Rスピーカーだけで音場プログラムを楽しめます。

## AAC(アドバンスド オーディオ コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

## LFE(ローフリクエンシーエフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

## サンプリング周波数/量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)をおこなう回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。

# 入力信号と再生スピーカー対応表

音場プログラムと入力音声信号、再生スピーカーの関係について詳しくは、下記の表をご覧ください。  
本機に入力する音声信号と、選んだ音場プログラムの組み合わせによっては、特定のスピーカーから音が出ないことがあります。

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

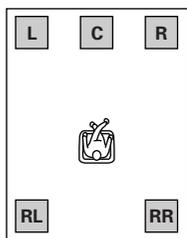
音場プログラム名	2チャンネル (モノラル)	2チャンネル (ステレオ)	5.1チャンネル	6.1チャンネル*
① CONCERT HALL ② JAZZ CLUB ③ ROCK CONCERT ④ ENTERTAINMENT/ Disco				
④ ENTERTAINMENT/ 5ch Stereo				—————
④ ENTERTAINMENT/ Game ④ ENTERTAINMENT/ Concert Video ⑤ TV SPORTS ⑥ MONO MOVIE ⑦ MOVIE THEATER 1 ⑧ MOVIE THEATER 2**				
⑨ /DTS/AAC SURROUND/Normal ⑨ /DTS/AAC SURROUND/ Enhanced				
⑨ PRO LOGIC II				—————
	Movie	Music	Movie/Music	

\* マトリクス6.1デコーダーが作動していることを示しています。

\*\* MOVIE THEATER 2/GENERAL選択時に、2チャンネル(モノラル)信号を入力するとリアスピーカーから音が出ません。

## 表の見かた

表中のイラストは、5つのスピーカーを示します。



L: フロントLスピーカー

C: センタースピーカー

R: フロントRスピーカー

RL: リアルスピーカー

RR: リアRスピーカー

イラスト中の各スピーカーのイラストは、音が出ているかいないかを示します。



音が出ているスピーカー



音が出ていないスピーカー



バーチャルリアセンタースピーカー（音が出ている）

### ご注意

- スピーカーモード(59～60ページ)でNONIに設定されているスピーカーは、接続されていても音は出ません。
- 再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出なかったり、また図示した以外のスピーカーから音が出る場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

# メーカーコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式や年式によって使用できないものがあります。  
このような場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

## テレビ（機器別コード：2）

メーカー名	メーカーコード					
Aiwa	94	76				
Daewoo	97	98	24	27	28	
Funai	77	78				
LG (Goldstar)	97	98	39	37		
Hitachi	97	39	42	43		
JVC (Victor)	96	46	47			
Mitsubishi	99	97	59			
NEC	97	52	82			
Panasonic	34	35	36	53		
Pioneer	26	35	54	55	68	
Samsung	97	39	48	62	75	
Sanyo	95	33	79	72	73	74
Sharp	92	39	32			
Sony	63					
Toshiba	92	26	67			

## ビデオデッキ（機器別コード：3）

メーカー名	メーカーコード					
Aiwa	96	97	98	29		
Daewoo	28	34	35			
Funai	97	88				
LG (Goldstar)	96					
Hitachi	25	33	49	42	43	
JVC (Victor)	92	94	44	45	46	47
Mitsubishi	99	44	48	59	52	53
NEC	92	94	44	83		
Orion	27					
Panasonic	25	28	39	55	78	84
Pioneer	25					
Samsung	54	58	63	64	65	66
Sanyo	93	36	67			
Sharp	95	62	82			
Sony	68	79	72	73	74	75
Teac	92	94	97			
Toshiba	35	69	89			

## CDR（機器別コード：4）

メーカー名	メーカーコード
Yamaha	99
Sony	27
Denon	22 23
JVC (Victor)	25
Kenwood	22
Pioneer	26
Marantz	22
Philips	22
Hitachi	24

## MD（機器別コード：5）

メーカー名	メーカーコード	
Yamaha	99	98
Sony	22	
Denon	23	24
JVC (Victor)	25	
Kenwood	26	
Pioneer	27	
Sharp	28	

# 主な仕様

## オーディオ部

定格出力	
フロント、センター、リア(1kHz、0.9%THD、6Ω)	33W
スーパーウーファー(100Hz、0.9%THD、5Ω)	40W
実用最大出力(EIAJ)	
フロント、センター、リア(1kHz、10%THD、6Ω)	40W
スーパーウーファー(100Hz、10%THD、5Ω)...	50W
全高調波歪率	
フロント(20W、1kHz)	0.05%
S/N比(IHF-A、入力ショート)	95dB
入力端子	
VIDEO1、VIDEO2、VCR、MD/CD-R	200mV/47kΩ
出力端子(200mV入力時)	
PRE OUT(フロント、センター、リア)	max.1V
PRE OUT(サブウーファー)	max.4V
REC OUT	200mV/1.2kΩ
ヘッドホン	165mV/100Ω

## ビデオ部

ビデオ入力信号	
ビデオ	1Vp-p/75Ω
Sビデオ(Y/C)	1Vp-p/0.286Vp-p/75Ω
コンポーネント(Y/P <sub>B</sub> 、P <sub>R</sub> )	1Vp-p/0.7Vp-p/75Ω
S/N比	50dB

## チューナー部

FM受信周波数範囲	76.0~90.0MHz(0.1MHzステップ)
AM受信周波数範囲	531~1611kHz(9kHzステップ)

## スピーカー

フロント、リア用	
型名	NX-S100S、インピーダンス6Ω
型式	2ウェイバスレフ(10cm、1.9cm)、防磁型
センター用	
型名	NX-S100C、インピーダンス6Ω
型式	2ウェイバスレフ(7cm×3、1.5cm)、防磁型
スーパーウーファー用	
型名	SW-S100
型式	アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー方式(16cmウーファー)、防磁型

## 総合

電源電圧/周波数	100V、50/60Hz
消費電力	
DVR-S100	35W
SW-S100	120W
待機電力	
DVR-S100	0.4W
寸法(幅×高さ×奥行き)	
DVR-S100	435×84×360mm
SW-S100	200×395×416mm
NX-S100C	440×85×122mm
NX-S100S	120×250×92mm
質量	
DVR-S100	6.0kg
SW-S100	10.7kg
NX-S100C	1.7kg
NX-S100S	1.1kg
動作温度範囲	+5~+35℃
動作湿度範囲	5~90%(結露しないこと)
付属品	3ページをご覧ください

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買上げ日より1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## 修理料金の仕組み

- ・ **技術料**:故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ・ **部品代**:修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ・ **出張料**:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

## 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。(品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。)

## スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

## 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

## ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきます。)

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは (ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL(011)512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL(022)236-0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL(03)5762-2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL(053)465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL(052)652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL(06)6877-5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL(082)874-3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL(087)822-3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL(092)472-2134

## 愛情点検



### ★永年ご使用のAV製品の点検を!

#### こんな症状はありませんか?

- ・ 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ・ コゲくさい臭いがする。
- ・ 電源コードに深いキズが変形がある。
- ・ 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- ・ 電源を入れても正常に作動しない。
- ・ その他の異常・故障がある。



#### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

